



NASCAR



M.O.S.C.

THUNDER SPECIAL

1000

Authorized by : FIA/JAF/NASCAR
Organized by : Suzuka Circuitland/SMSC/M.O.S.C.
Supported by : Embassy of the U.S.A., Mie Prefecture,
Suzuka City, Suzuka Chamber of Commerce and Industry,
Suzuka City Tourist Association,
Japan External Trade Organization

1996. 11/22^{FRI} - 24^{SUN}
Race on East Circuit



Special Promotion Partner



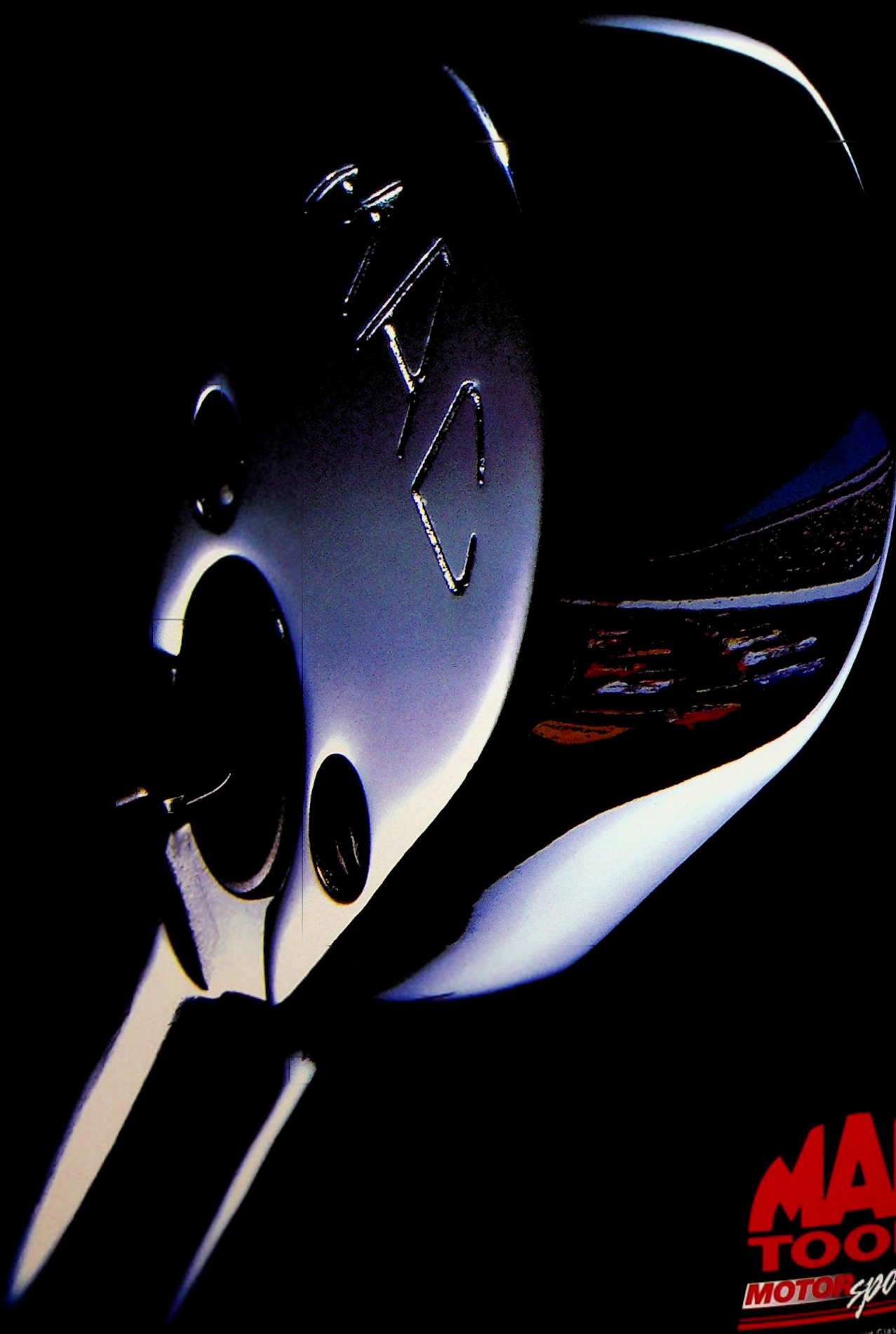
'96 OFFICIAL PROGRAMME

¥1,000



SHIZUKA CIRCUIT

The Winning Choice.



**MAC
TOOLS**
MOTOR sports

Tools For The World Class Technician
MAC RICK Tools
マック・リックツールズ TEL. 035-413-3000

このアメリカ
が、たまらない。
シボレー



踏み込む瞬間が、違う
リアル・アメリカンスポーツ シボレー カマロ



CHEVROLET

アメリカン・モータースポーツのスピリットが息づく、シボレー カマロ。289ps、44.9kg・mの豪快なV8シリーズ。それはアクセルを踏み込んだ瞬間、カマロならではのビッグトルクとパワーを発生し、強烈な加速となって現れる。203ps、31.1kg・mのV6シリーズも、沸き立つように爽快なドライブフィール。その違い、その真価、いま全身をカマロが魅了する。——シボレー カマロ

¥2,380,000より
(全国最低小売価格)

CHEVROLET
CAMARO

クーペ / スポーツクーペ / スポーツクーペ Tトップ /
Z28 / スポーツコンバーチブル / Z28 コンバーチブル

■ Photo: シボレー カマロ Z28 E-CF45B型 全長4,910mm 全幅1,890mm 全高1,320mm 5,727cc V型8気筒 最高出力(SAE)289ps/5,200rpm 最大トルク(SAE)44.9kg・m/2,400rpm
■ 主要装備: デュアルエアバッグ、ABS、サイドガードビーム、リミテッドスリップコントロールなど ● 価格には、保険料、税金(消費税を含む)、登録などに伴う諸費用は含まれません。

お求めとお問い合わせは、お近くのヤナセへ。
またはGMフリーダイヤル0120-10-5252におたずねください。



3年または6万kmの長期保証
シボレーの保証は、3年または6万kmを標準とし、5年に延長した2万5千kmのオプションについては、有効期間にかかわらず年間延長いたします。保証内容を詳しくはシボレーウェブサイトをご覧ください。



日本ゼネラルモーターズ株式会社
〒150-8585 東京都目黒区比奈4-20-3 エビスガーデンプレイスタワー27階

GOODYEAR RACING EAGLE'S
**UNIQUE
GOLD SIDEWALL
STYLING**

NOW AVAILABLE FOR
YOUR CAR OR TRUCK.

INTRODUCING
**THE GOODYEAR
EAGLE #1
STREET RADIAL.**

Wear the color of champions.
Get Eagle #1 performance radials.
ONLY FROM GOODYEAR.



THE BEST TIRES IN THE WORLD HAVE GOODYEAR WRITTEN ALL OVER THEM.

Call 1-800-GOODYEAR for a location near you. Visit our Web Site at: <http://www.goodyear.com>



EAGLE
Goodyear

キミは、本物を、 知らない。

オリジナルは、地球のスーパースターだった。

ただ者じゃなさそう、とは思っていても、
こうまで大物とは知らなかったのではないかな。
あのCATのマーク、オリジナルは本物中の本物。
世界を動かす、建設機械のNo.1ブランド、CATERPILLAR(キャタピラー)だ。
これこそスーパーカー、これこそ地球のスーパースター。
新キャタピラー三菱は、世界が信頼する建設機械、
その総合エンジニアリング企業です。

新キャタピラー三菱グループ

本社/営業本部 〒158 東京都世田谷区用賀四丁目10-1
TEL 03-5717-1121
相模事業所 〒229-11 神奈川県相模原市田名3700
明石事業所 〒674 兵庫県明石市魚住町清水1106-4

北海道キャタピラー三菱建設販売株式会社
東北建設機械販売株式会社
北関東キャタピラー三菱建設販売株式会社
北関東キャタピラー三菱建設販売株式会社
関東キャタピラー三菱建設販売株式会社
東京キャタピラー三菱建設販売株式会社
神奈川キャタピラー三菱建設販売株式会社
新キャタピラー三菱建設販売株式会社
北陸キャタピラー三菱建設販売株式会社
甲信キャタピラー三菱建設販売株式会社
静岡キャタピラー三菱建設販売株式会社

中部キャタピラー三菱建設販売株式会社
関西キャタピラー三菱建設販売株式会社
近畿キャタピラー三菱建設販売株式会社
中国キャタピラー三菱建設販売株式会社
中国キャタピラー三菱建設販売株式会社
四国キャタピラー三菱建設販売株式会社
四国建設機械販売株式会社
九州建設機械販売株式会社
建設機械販売株式会社

シー・エム・エス
エス・シー・エム 教育研究所
エス・シー・エム システムサービス株式会社
サガミジューエス株式会社
シー・エム・ヒューマンサービス株式会社
エス・シー・エム 関東事務所
シー・エム ロジスティクスサービス株式会社
アカシジーエス株式会社
シー・エム・カスタムプロダクト株式会社

CATERPILLAR(キャタピラー)及びCAT(Caterpillar Inc.)の登録商標です。
REGALは新キャタピラー三菱株式会社の子会社です。





駐日アメリカ合衆国大使
ウォルター・F・モンテール

NASCARが真の国際スポーツイベントとして日本で開催されることを歓迎します。米国車と米国人ドライバーは、アメリカ流のスポーツのスリルを日本のファンの皆様に味わっていただけることでしょう。NASCARのエンジンの轟音は幅広い層の米国人の心をとらえています。したがって、このイベントは日本の方々にアメリカ文化の活気溢れる一面を紹介することになるでしょう。

現代の世界における日米関係の重要性を考えると、あらゆる機会を捉えて両国間、両国民間の人間的なつながりを深めていくことが肝要です。NASCARの日本開催は、こうした関係強化に役立つことでしょう。イベントの実現に尽力されたNASCARと鈴鹿サーキットランドに感謝します。

サーキットに直接行くことはできませんが、喜んでこう申し上げたいと思います
「GENTLEMEN, START YOUR ENGINES!」

I WELCOME NASCAR TO JAPAN FOR A TRULY INTERNATIONAL SPORTING EVENT. AMERICAN CARS AND U.S. DRIVERS WILL BE SHARING THE THRILL OF AN AMERICAN PASTIME WITH JAPANESE FANS. THE ROAR OF NASCAR ENGINES HAS INDEED CAPTURED THE IMAGINATION OF A BROAD SECTOR OF AMERICA, SO THIS EVENT WILL SHOWCASE A VIBRANT SLICE OF AMERICAN CULTURE FOR OUR JAPANESE FRIENDS.

GIVEN THE CRUCIAL NATURE OF THE U.S.-JAPAN PARTNERSHIP IN THE MODERN WORLD, WE MUST CAPITALIZE UPON EACH OPPORTUNITY TO INCREASE HUMAN TIES BETWEEN OUR NATIONS AND OUR PEOPLE. THIS RACE IN JAPAN WILL STRENGTHEN THOSE BONDS. I APPRECIATE THE WORK OF NASCAR AND SUZUKA CIRCUITLAND TO MAKE THIS EVENT HAPPEN.

ALTHOUGH I CANNOT BE THERE IN PERSON, IT PLEASURES ME TO SAY:
GENTLEMEN, START YOUR ENGINES !

Walter F. Mondale

AMBASSADOR OF
THE UNITED STATES OF AMERICA



NASCAR会長
ビル・フランス

レースファンの皆様へ

NASCAR鈴鹿 サンダースペシャル100の開催を心からお慶び申し上げます。

NASCARと鈴鹿サーキットランドは3年間にわたり懸命な努力を積み重ねて参りましたが、その結果として本日のレース開催と相成りました。私どもは今回こうして日本を訪れたことをうれしく思っておりますし、同時に鈴鹿サーキットランド取締役社長松田充史氏ならびに同社のスタッフの皆様に対し、今回の強く心に残る旅における厚いおもてなしに感謝の意を表したいと思えます。

私どもには皆様をゲストとして鈴鹿サーキットにお招きすると同時に、私どもが世界で最もコンペティティブであると自信を持っているレースをご披露申し上げる責任があります。私どものドライバーおよびチームはエキサイティングなレースを繰り広げるものと確信しております。できる限り性能を等しくした様々なマニファクチャラーの車か闘いを繰り広げるといふNASCARの目標とするレースをお見せすることは、スポーツにとって、とくにモータースポーツファンの皆様にとって至上の利益であるのです。

このプロジェクトに関しては大勢の方にお礼を申し上げなければなりません。なかでもフォード・サンダーバード、シボレー・モンテカルロ、ポンティアック・グランプリといった車を毎週毎週レースに出走させるべく、われわれにご協力くださったフォードとゼネラルモーターズというアメリカの自動車メーカーに対し、敬意を表したいと思えます。さらに、アメリカでのエキサイティングなシーズンを終了した後に、今回初めてのイベントに特別に参加してくださったドライバーやチームオーナーに対しても、感謝の意を表さなければなりません。

日本には熱心なモータースポーツファンがいらっしゃいます。私どものスポーツを日本で開催できたことをうれしく思っていますし、ファンの皆様をはじめ関係者の皆様方に、モータースポーツ最高峰のレースにしてエンターテイメントでもあるNASCAR観戦を楽しんでいただき、鈴鹿サーキットでのこのすばらしいレースの良さを知っていただきたいと存じます。

Dear Race Fans,

It is indeed a pleasure to welcome you to the NASCAR Suzuka Thunder Special 100.

Today's race is the result of three years of hard work between NASCAR and Suzuka Circuitland. We are pleased to be in Japan this week and want to thank Takashi Matsuda, the president of Suzuka Circuitland, and his fine staff for their hospitality in making this a most memorable trip.

While we join you as guests at Suzuka Circuit, we also have a responsibility to showcase what we believe is the most competitive form of motorsports in the world. I believe that our drivers and their teams will put on an exciting race. Proving that NASCAR's goal of fielding various cars from different manufacturers that are as equally matched as possible is in the overall best interest of the sport, and motorsports fans in particular.

There are many who need to be thanked for this project, but, in particular I would like to salute the American automobile manufacturers — Ford and General Motors — who work with us to put Ford Thunderbird's, Chevrolet Monte Carlo's and Pontiac Grand Prix' — on the race track week in and week out. I must also thank the drivers and team owners, who after an exciting season of racing in the United States, made extraordinary commitments to be a part of this inaugural event.

Japan is a country with devout motorsports fans. I am happy that we have been able to bring our sport here and hope that you, as well as everyone else involved, enjoy watching NASCAR, the leader in motorsports racing and entertainment, take to this fine racing facility at Suzuka Circuit.

Sincerely,

Bill France
NASCAR President



大会名誉顧問
加藤 栄
Honorary Adviser
Sakae Katō

全国のモータースポーツファンの皆様、ようこそ鈴鹿市へお越しくださいました。

今回、NASCARのレースが日本で初めて鈴鹿サーキットで開催されますことを心からお喜び申し上げます。

皆様ご存じのとおり、ここ鈴鹿サーキットは日本のモータースポーツのパイオニアであります。

そこで私たちは様々なレースを見ることができました。しかし、それでレースの全てを見てきたのではないと感じさせられます。

それが、このNASCARなのです。

アメリカで熱狂的な支持を受けているレースが私たちの目の前で繰り広げられることに感動を覚えます。

私は、日本のモータースポーツの発祥の地であるという誇りと新たなアメリカンモータースポーツを紹介できるという喜びでいっぱいです。

また、鈴鹿市は海も山もある自然にあふれるところでもあります。この機会に鈴鹿に一層親しんでいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、主催者をはじめとする関係者の皆様ならびに競技運営役員の皆様に深く敬意を表するとともに、本大会に御出場のチーム、選手の皆様の御健闘をお祈り申し上げます。

Thanks to all the motorsports fans for visiting Suzuka City.

It is our great pleasure to host the first NASCAR race in Japan, here at Suzuka Circuit.

As you know very well, Suzuka Circuit is a pioneer in Japanese motor racing and we have witnessed various races here. However, we have felt that we had not yet seen the full range of racing. With the coming of NASCAR that wanting is fulfilled. I'm so exciting to be able to see the race which is so enthusiastically supported by the people of the United States. As Suzuka Circuit is a pioneer in motorsports, we are proud and pleased to introduce a new facet of American motorsports.

Located between mountains and the sea, Suzuka City is blessed with abundant nature. I hope you can appreciate the beauty all around you during your stay.

In closing I would like to extend our sincere thanks to the organizer, the event officials, and the people who are so supportive of us, and wish the best of luck to all the teams and drivers.

加藤 栄

Sakae Katō
三重県鈴鹿市市長
Mayor of Suzuka City



大会会長
松田 充史
President
Takashi Matsuda

本日は鈴鹿サーキットにようこそお越しくださいました。日本におけるアメリカンモータースポーツの幕開けともいふべきこの日を、皆様とともに迎えられたことは主催者としてこの上ない喜びとするところでございます。

「NASCAR鈴鹿 サンダースペシャル100」はアメリカで最も高い人気を誇るウィンストン・カップのスペシャルイベントとしての開催となります。

NASCARレースは何よりも“お客様に楽しんでいただく”ことを重視し、レースが“より面白く”なるように運営面でさまざまな工夫が凝らされています。もちろん本大会においても、これまで日本では見ることができなかったアメリカンモータースポーツならではのレースをお楽しみいただけることと思います。

また、本大会には4名の日本人選手が出場しております。全米のトップドライバーに挑戦する彼らにも大きな声援をお願いいたします。

最後に、ご来場のモータースポーツファンの皆様をはじめ、ご後援をいただきましたアメリカ大使館、三重県、鈴鹿市、鈴鹿商工会議所、鈴鹿市観光協会、日本貿易振興会、ならびに大会特別協賛をいただきました株式会社ミリオンカード・サービス様、そしてご支援、ご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

Thank you for coming to Suzuka Circuit today.

As the sponsor of this event it is our great pleasure to be here with you to witness the opening of American Motorsports in Japan.

This NASCAR Suzuka Thunder Special 100 is being held as a special event of, America's most popular racing series, Winston Cup.

A major focus of NASCAR races is pleasing the fans, therefore there are constant ideas and special promotions going on. Today, you will see exciting racing like you've never seen in Japan before.

There are four Japanese drivers participating in the race. I hope you will give them your full support in their challenge against America's leading drivers.

In closing, I would like to extend my sincere appreciation to the motorsports fans, Embassy of the U.S.A., Mie Prefecture, Suzuka City, Suzuka Chamber of Commerce and Industry, Suzuka City Tourist Association, Japan External Trade Organization, all the others who have been so supportive, and Million Card Service Co., Ltd. for its special cooperation in this event.

松田 充史

Takashi Matsuda
株式会社 鈴鹿サーキットランド 取締役社長
President of the Suzuka Circuitland Co., Ltd.

CONTENTS

ごあいさつ <i>Greetings</i>	7
レース進行スケジュール <i>Timetable</i>	10
大会組織 <i>Officials of the Meeting</i>	11
NASCARレーシングオフィシャルズ <i>NASCAR Racing Officials</i>	13
興奮と感動のNASCARワールド <i>Introduction of NASCAR</i>	16
THUNDER SPECIAL 100見どころ <i>THUNDER SPECIAL 100 Preview</i>	24
デイル・アーンハート <i>Message from DALE EARNHARDT</i>	30
ジェフ・ゴードン <i>Message from JEFF GORDON</i>	32
ラスティ・ウォレス <i>Message from RUSTY WALLACE</i>	34
デイル・ジャレット <i>Message from DALE JARRETT</i>	36
アーニー・アーバン <i>Introduction of ERNIE IRVAN</i>	38
エントリーリスト <i>Entry List</i>	41
ドライバー紹介 <i>Introduction of Drivers</i>	42
がんばれ! ニッポン <i>Hold Out! Japanese Drivers</i>	49
NASCARコラム集 <i>Various Informations for NASCAR</i>	50
鈴鹿サーキットコースガイド <i>Suzuka Circuit Racing Course Guide</i>	56
鈴鹿サーキット園内マップ <i>Suzuka Circuit illustration Map</i>	58
モータースポーツリゾート鈴鹿サーキットガイド <i>It's fun! Suzuka Circuit</i>	60

OFFICIAL TV

THUNDER SPECIAL 100オフィシャルTV放映

日	本 : 11月30日(土) 16:00-17:15(予定)
	TXN系列6局ネット
	テレビ愛知-テレビ東京-テレビ大阪-テレビ北海道-
	テレビせとうち-ティ・エックス・エヌ九州
アメリカ :	11月23日(土) 22:00~
	TBS(ターナー・スポーツ)

TIMETABLE

Friday, 22 November / 11月22日(金)

9:00	Main Gate Open (メインゲートオープン)
9:30-11:30	Practice (プラクティス)
11:45-13:45	Pit Walk (ピットウォーク)
14:00-16:00	Practice (プラクティス)

Saturday, 23 November / 11月23日(土)

8:30	Main Gate Open (メインゲートオープン)
9:00-10:30	Practice (プラクティス)
11:30-13:30	Qualifying 3Laps (3ラップ クオリファイイング)
13:45-14:45	Pit Walk (ピットウォーク)
15:00-16:00	Final Practice (ファイナル プラクティス)

Sunday, 24 November / 11月24日(日)

8:00	Main Gate Open (メインゲートオープン)
10:30-11:30	Pit Walk (ピットウォーク)
11:45-12:00	Driver Introduction (ドライバー紹介)
12:30-	THUNDER SPECIAL 100 1st Segment 50Laps 2nd Segment 50Laps (THUNDER SPECIAL 100決勝) (第1セグメント 50周 第2セグメント 50周)

SPONSORS

- スペシャルプロモーション・パートナー(大会特別協賛)
株式会社 ミリオンカード・サービス
- プロモーション・パートナー
日本ゼネラルモーターズ株式会社 シボレーディビジョン

■ご協賛各社(五十音順)

R.J.Raynolds Tobacco Co.	日本信販株式会社
カルテックス・オイル・プロダクツ(ジャパン)株式会社	日本特殊陶業株式会社
京都機械工具株式会社	日本舗道株式会社
シーシーアイ株式会社	Hayes Microcomputer Products, Inc.
GMサービスパーツ事業部	株式会社ペンソイル・ジャパン
新キャタピラー三菱株式会社	本田技研工業株式会社
スナップオン・ツールズ株式会社	マック・ツールズ(株式会社スタンレーワークスジャパン)
第二電電株式会社	松下電器産業株式会社
デュボン株式会社	Miller Brewing Company
株式会社ナムコ	UNOCAL Corp.
日本グッドイヤー株式会社	

大会組織 Officials of the Meeting

大会名誉顧問
Honorary Advisor
加藤 栄 (鈴鹿市市長)
SAKAE KATO Mayor of Suzuka City

大会会長
President
松田 充史
TAKASHI MATSUDA

大会組織委員会/Organizing Committee

組織委員長
President of Organizing Committee
内田 亨
Tohru Uchida
組織委員
Member of Organizing Committee
榑井 良司
Ryōji Tarui
組織委員
Member of Organizing Committee
三原 哲夫
Tetsuo Mihara

競技役員/Race Officials

大会審査委員会/Stewards of the Meeting

審査委員長
Chief Steward
ゲアリー・ネルソン
Gary Nelson
審査委員
Steward
スティーブ・ピーターソン
Steve Peterson
審査委員
Steward
近藤 幾夫
Ikuo Kondō

大会顧問
Adviser
星島 浩
Hiroshi Hoshijima
大会顧問
Adviser
木村 吉次
Yoshitsugu Kimura
大会参与
Councilor
矢吹 圭造
Keizō Yabuki
大会参与
Councilor
志村 行勇
Yukio Shimura

副ピット・パドック管理委員長
Assistant Chief pit and paddock Controller
山内 良夫
Yoshio Yamauchi
医師団長
Chief Doctor
鬼頭 正人
Masato Kitō
救急委員長
Medical Director
室賀 良久
Yoshihisa Muroga
広報委員長
Public Relation Director
後藤 博泰
Hiroyasu Gotō
大会事務局長
Secretary General
市瀬 重敏
Shigetoshi Ichise

NASCAR OFFICIALS

車検委員
Inspector
ウェイン・オウトン
Wayne Auton
車検委員
Inspector
ウッディー・ニース
Woody Neese
車検委員
Inspector
アル・バスナイト
Al Basnight
車検委員
Inspector
リッチ・バーグドフ
Rich Burgdoff
車検委員
Inspector
ブライアン・テハート
Brian Dehart
車検委員
Inspector
ウォルト・グリーン
Walt Green
オフィシャル
Official
フィル・ハウスレイ
Phil Housley
オフィシャル
Official
ティム・ハドソン
Tim Hudson
オフィシャル
Official
フロイド・ヘンダーソン
Floyd Henderson

レースディレクター
Race Director
マイク・ヘルトン
Mike Helton
競技長
Clerk of the Course
鈴木 隆史
Takashi Suzuki
副競技長
Assistant Clerk of the Course
南 洋一
Yōichi Minami
コース委員長
Chief Course Marshal
エルモ・ラングレー
Elmo Langley
副コース委員長
Assistant Chief Course Marshal
杉浦 健治
Kenji Sugiura
技術委員長
Chief Scrutineer
バスター・オウトン
Buster Auton
副技術委員長
Assistant Chief Scrutineer
福田 貢規
Mitsunori Fukuda
計時委員長
Chief Time Keeper
モリス・メットカーフェ
Morris Metcalfe
副計時委員長
Assistant Chief Time Keeper
佐藤 勻
Hitoshi Sato
進行委員長
Paddock Director
鈴木 証二
Shōji Suzuki
ピット・パドック管理委員長
Chief pit and paddock Controller
内田 修一
Shūichi Uchida

レースアナウンサー
Race Announcer
山本 克典
Katsunori Yamamoto
レースアナウンサー
Race Announcer
稗田 美穂
Miho Hieda
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
飯野 みのり
Minori Iino
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
石川 美津穂
Mizuho Ishikawa
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
大賀 聡子
Satoko Ōga
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
加藤 友美
Tomomi Katō
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
鈴木 万美子
Mamiko Suzuki
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
大工原 忍
Shinobu Daikuhara
鈴鹿サーキットクイーン
Suzuka Circuit Queen
安田 香織
Kaori Yasuda

- | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|---|---|--|--|
| ●コース
窪田 光男
柳井 功
土田 雅美
小川 賢二
龍岡 桂
児玉 康裕
伊藤 昭雄
市原 齊
立松 誠一
石津 裕史
河合 正好
福谷 慎行
坪井 清貴
高橋 英樹
広瀬 江里
小笠原克紀 | 福岡 龍史
山内 悦夫
保地 源
伊藤 真
伊藤 高治
山本 紳二
小松 晃
土田 博之
舟橋 伸介
鈴木 一彦
北山 貴広
三谷 元人
上村 誠児
伊藤 大輔
田邊 良幸
宮澤 謙作
小林 恒太 | 中村 良美
塩田 勝美
増石 利明
●パドック
加藤 龍志
飯田 省三
中村 弘和
門柳 健二
松島 忍
油谷 公平
小池 一成
中森 剛
吉田 成美
勾田 和利
藤田 敏和
小林加奈子
繁島 卓也 | 勾田 録
横川 徳城
寒川 宏幸
雪竹 博
前川 敏彦
小林 桂一
中野 学
藤松 一成
南郷 光男
寺村 昭治
川村 信也
堀川 勝明
石井 光章
横山 雄一
●レスキュー
柳田 勝久
奥野 貴広 | 前西 彰
新潟 幸弥
古池 桂一
森 卓敏
原田 浩介
竹房 清文
外松 慎一
小池 貴之
白井 正弘
高木 高明
中台 道夫
中野 直樹
●ファイヤーマン
野田 浩二
桂山 孝幸
小林 真澄
小林 寛 | 谷村 隆俊
宮崎 常利
辻 克也
吉田 圭一
小田 秀一
野島 進
藤田 彰
●計時
早川 勉
栗山 隆史
牧野 真也
後藤 康次
榑井 一利
井上 昌弘
藤松 智志
塩崎 由香
池辺久美子 | 津村 龍則
水井 協子
吉岡 友紀
白井 美和
後藤 尚美
高橋 公樹
阪田 敬治
●技術
神谷 和満
小武内泰夫
福田 貢規
松本 洋
正木 秀弘
古川 智亮
富沢 紀夫
石井 隆
湯浅 俊之 | 星野 学
川崎 裕行
山田 隆
小菅 孝幸
●ETドクター
田中 一正
加藤 補洋
●ドクター
榑井 俊也
駒田 拓也
湯浅 石人
●ナース
金光 真治
伊藤 秀樹
橋本 宇
田中 悦子
島 千代子 | 栗木 七穂
豊田 恵子
城山千都世
浜西恵美子
高橋 美幸
小林 恵子
谷 千恵子
神戸 静香
●事務局
杉山 恵
浅野 亜樹
井戸川 靖
吉田 隆文
石田 聡
岡野 勝仁
車山 正義
伊藤 啓泰 | 伊藤 直樹
山下 一郎
太田 潔
島崎 盛
小林 美鈴
水田久美子
道坂 優子
山田 幸代 |
|---|--|---|---|---|---|---|---|--|--|

スピードはひかえめに、シートベルトをして安全運転。

人と地球に夢・発見・ドラマを。HONDA

HONDA VICTORY

THE 1996 INDY CAR WORLD SERIES

MANUFACTURER'S CHAMPIONSHIP - JIMMY VASSER, DRIVER'S CHAMPIONSHIP - JIMMY VASSER, ROOKIE OF THE YEAR - ALEX ZANARDI

1996 SEASON VICTORIES

[ROUND 1] HOMESTEAD: MAR. 03
JIMMY VASSER / TARGET
CHIP GANASSI RACING

[ROUND 3] SURFERS PARADISE, AUSTRALIA: MAR. 31
JIMMY VASSER / TARGET
CHIP GANASSI RACING

[ROUND 6] BROOKLYN: MAY 26
JIMMY VASSER / TARGET
CHIP GANASSI RACING

[ROUND 10] CLEVELAND: JUN. 30
GIT DE FERRAN / HALL RACING, INC.

[ROUND 12] BROOKLYN: JUL. 28
ANDRE RIBEIRO / TASMAN MOTORSPORTS GROUP

[ROUND 16] MONTEREY: SEPT. 08
ALEX ZANARDI / TARGET CHIP GANASSI RACING

[ROUND 2] RIO DE JANEIRO, BRAZIL: MAR. 17
ANDRE RIBEIRO / TASMAN MOTORSPORTS GROUP

[ROUND 4] LONG BEACH: APR. 14
JIMMY VASSER / TARGET CHIP GANASSI RACING

[ROUND 9] PORTLAND: JUN. 3
ALEX ZANARDI / TARGET CHIP GANASSI RACING

[ROUND 11] TORONTO, CANADA: JUL. 10
ANDRE RIBEIRO / TASMAN MOTORSPORTS GROUP

[ROUND 13] LEXINGTON: AUG. 11
ALEX ZANARDI / TARGET CHIP GANASSI RACING

R



Rは、レーシング・スピリッツのR。

INTEGRA TYPE R

Photo: Integra Type R 3Door Coupe

■型式:DC ■全長:4.380m ■全幅:1.797cm ■最高出力:200PS/8,000rpm ■最大トルク:18.5kgm/7,500rpm ■全高:1.695m ■全重:1,320kg ■定員:4名 ■シート:4人用 ■インテグラTYPE Rは、4MT車でのみ設定。

THE 1996
INDY CAR
WORLD SERIES

ホンダ、インディシリーズで三冠達成!

マニファクチャラーズ・チャンピオン ドライバーズ・チャンピオン(ジミー・バッサー) ルーキー・オブ・ザ・イヤー(アレックス・ザナルディ)

インディカーレース。全米で絶大の人気と歴史を誇るこの大会において、今年、ホンダは「マニファクチャラーズ(エンジン製造者)チャンピオン」をはじめとする3つの主要タイトルを獲得しました。世界のサーキットに勝利し続けることで、独自の技術と情熱に磨きをかけてきたホンダ。インテグラ TYPE Rというクルマには、そんな数々のレースシーンで培ったホンダの熱いレーシング・スピリッツが流れています。

●お問い合わせ、ご相談はお近くのヘルプデスクまたは
各店の本田1996営業(株)お客様相談センターまで。
電話1194(朝、9時~12時) 1393(夜、7時~11時)

0120-112010

ホンダCカード

会員登録中

点検・整備をしっかりとしましょう。
自動車点検整備検査センター


VERNO
ホンダベル/店からお届けします



Racing Officials

SEMON E. KNUDSEN	National Commissioner	JOHN GRIFFIN	Director of Communications Worldwide
BILL FRANCE	President	ANDY HALL	Editor, Information Services
JIM FRANCE	Executive Vice President/Secretary	FLOYD HENDERSON	NASCAR Official
BETTY JANE FRANCE	Assistant Secretary	CARL HILL	NASCAR Winston Cup Series Registrar
LES RICHTER	Senior Vice President of Operations	RAY HILL	NASCAR Busch Series, Grand National Division Director
KEN CLAPP	Vice President for Western Operations	DAVE HOLCOMBE	Risk Manager
BRIAN FRANCE	Vice President for Marketing & Communications	PHIL HOUSLEY	NASCAR Official
MIKE HELTON	Vice President for Competition	TIM HUDSON	Assistant Scorer
DENNIS HUTH	Vice President for Administration	PAM HUNNICUTT	Special Activities Manager
DORIS RUMERY	Vice President for Finance	ROBERT HUNTINGTON	NASCAR Official
GEORGE PYNE	Vice President of Licensing and Consumer Products	DAVID HYATT	Manager, NASCAR Online
BOB SMITH	Director of Business Affairs	MARGARET KEARNEY	Controller
BUSTER AUTON	NASCAR Official	OWEN KEARNS, Jr.	NASCAR Craftsman Truck Series Media Coordinator
WAYNE AUTON	NASCAR Craftsman Truck Series Director	AMY KESTER	Events Coordinator
AL BASNIGHT	NASCAR Official	JEFF LACLAIRE	Marketing Accounts Coordinator
DOROTHY BEECH	Assistant Treasurer	ELMO LANGLEY	NASCAR Official
RON BENNETT	NASCAR Winston Racing Series Northeast Field Manager	SUSAN MCLAIN	Coordinator, Creative & Research
BILL BRICE	NASCAR Featherlite Modified Tour Technical	MORRIS METCALFE	Chief Scorer & Timer
PAUL BROOKS	Director of Special Projects	MARK MOCKOVAK	NASCAR Featherlite Modified Tour Media Coordinator
TOM BLEDSOE	Treasurer	SUSAN MOSS	Brand Development Manager
RICH BURGDOFF	NASCAR Official	WOODY NEESE	NASCAR Official
JIM CANTRELL	Management Information Systems Assistant	GARY NELSON	NASCAR Winston Cup Series Director
DIANE CERONE	Administrative Assistant	MATTHEW O'CONNOR	Coordinator of Communications
JOE COLLINS	NASCAR Winston Racing Series Southeast Field Manager	STEVE O'DONNELL	Marketing Services Coordinator
JERRY COOK	Competition Administrator	BOB PAULIN	NASCAR Busch North Series, Grand National Division Media Coordinator
ED COX	Special Assignments Representatives	STEVE PETERSON	NASCAR Official
GARY CROTTY	Corporate Counsel	MARY REED	Director of Membership and Points
JUDY D'APRILE-HAYDT	Director of Broadcasting and Corporate Marketing	GIB REPASS	NASCAR Winston West Series/REB-CO Northwest Tour Director
BLAKE DAVIDSON	Manager of Marketing Technology	PHIL ROBERTS	NASCAR Busch All-Star Tour Media Coordinator
TOM DEERY	Administrative Operations Manager	CHUCK ROMEO	NASCAR Craftsman Truck Series Technical Director
BRIAN DEHART	NASCAR Official	ALFRED "BUNK" SAMPSON	NASCAR Busch North Series, Grand National Division Field Director
BILL DESMOND	NASCAR Slim Jim All Pro/Goody's Dash Series	BART SCHAD	Licensing Manager
SONYA DODD	Special Activities Assistant	PAUL SCHAEFER	Editor of Publications
JEFF DOWLING	Marketing Services Manager	STEVE SCHENCK	Management Information Systems Director
LEE ELDER	NASCAR Featherlite Southwest Tour Media Coordinator	LIZ SCHLOSSER	Director of Licensing and Consumer Products
KEN FARRINGTON	NASCAR Busch North Series, Grand National Division Technical Director	KIM SHAVER	NASCAR Goody's Dash Series Director
MARIA FORMISANO	Senior Manager, Corporate Sponsorship	KEVIN TRIPLETT	Manager of Communications
LISA FRANSEN	Special Projects Assistant	TODD UNGER	Hospitality & Events Manager
DOUG FRITZ	Senior Director of Marketing and Business Development	MIKE VERLATTI	NASCAR Featherlite Southwest Tour Director
CHRIS GALLAS	Coordinator of Communications	CANDY WALLS	Special Projects & Media Coordinator
JOSH GARBERT	Licensing Coordinator	LES WESTERFIELD	NASCAR Slim Jim All Pro Series Director
RICK GOOLSBY	Marketing Services Coordinator	NANCY WILHITE	Registration Coordinator
KEVIN GREEN	NASCAR Winston West Series Media Coordinator	JIM WILSON	NASCAR Busch All-Star Tour & Central Region Director
WALT GREEN	NASCAR Official	MARLIN WRIGHT	NASCAR Busch Series, Grand National Division Registrar

いろんな人と話をして
あなたも私も育ってきた
そしてこれからも
いろんな人と話をして
あなたも私も育つていく
ちよつとずつ恩がえし
しながらね

メッセージ、あり。

DDDI

**GET
VERY
EXCITED**

**America's
Ultimate
Motorsport**

NASCAR

日本初上陸の大興奮!
全米人気ナンバー1のNASCAR来日!!

GET VERY EXCITED America's Ultimate Motorsport

興奮と感動渦巻く NASCARワールド

今回、鈴鹿サーキットに日本初上陸を果たした NASCAR。中でも最高峰クラスのシリーズとして全米ナンバー1の人気を誇るウィンストン・カップを、ひとことで説明するなら「迫力と興奮」これにつきるだろう。

市販車の面影を残すボディはド派手なスポンサーカラーで彩られ、テカテカと貼られたゼッケン、そしてV8エンジンの迫力あるサウンドなど、日本でこれまで目にしたレースとは、まったく違う趣を持っている。

最新のメカニズムを積むことはなくとも、そこで展開される戦いは見るものを興奮させずにはおかない。「America's Ultimate Motorsport」アメリカ究極のモータースポーツと呼ばれる、NASCARの世界へようこそ。





毎戦15万人以上を集める 超人気モータースポーツ

アメリカ南部・東部を中心として西海岸まで足を伸ばしながら年間31戦が開催されているNASCARウィンストン・カップは、モータースポーツの粋だけにとどまらず、アメリカ人にとって最大の娯楽としての位置を築いている。

毎戦サーキットに15万人以上の観客を集め、デイトナ500やインディアナポリスで開催されるブリックヤード400には30万人近い人が詰め掛ける。これだけの集客能力を持ったイベントは、アメリカがメジャースポーツ王国だといっても、そうはありはしない。

また実際にサーキットに足を運ばなくても、スポーツ専門チャンネルでテレビ観戦する人を含めれば、NASCARのファンは膨大な数になる。これだけの人気を誇るNASCARだから、そこに出ているドライバーはヒーローで、少年たちの憧れなのは言うまでもない。アメリカ人にとってNASCARは、野球やフットボールと並ぶ存在なのだ。

**GET
VERY
EXCITED**
America's
Ultimate
Motorsport

オーバルとロードコース NASCARの戦場はふたつ

NASCARが開催されるサーキットは、大きく分けてふたつある。楕円形をしたオーバルコースと呼ばれるものと、通常のサーキット（アメリカではロードコースと呼ぶ）の2種類だ。

ロードコースはワトキンスグレンとシアーズポイントの2カ所のみで、NASCARの主戦場となるのはオーバルコース。このオーバルコースも全長1マイル以下のショートトラックと、1マイル以上のスーパースピードウェイのふたつに分かれ、またバンクの角度が各コースによって異なり、片方のストレートにもコーナーを持つ三角形オーバル（トライオーバル）があるなど多岐にわたる。「オーバル＝丸い所をただグルグルと回るだけ」と思ってしまうかもしれないが、実際には常にハイスピードを保ったまま、バトルを展開しなくてはならない。このためドライバーには高度な判断力が要求される、ハードなレーシングフィールドなのだ。

予選もポイントも獨特の これがNASCARスタイル

NASCARの予選は1台ずつ1ラップのタイムアタックを行う1カーアタック式。金曜日に1回目の予選が行われ、タイム順でまずトップ20のグリッドが決定される。土曜日はトップ20にもれたドライバーたちが再びタイムアタックを行い、21番手から順にグリッドが埋められていく。なお土曜日にいくら速いタイムを出しても、20番手より上に行くことはできない。（注・鈴鹿でのTHUNDER SPECIAL100の予選システムは、これとは異なる。詳細はP.25を参照）。

シリーズポイントも独特で、決勝レースの順位に対して1位175点・2位170点・3位165点・4位160点・5位155点・6位150点。以下7～11位まで4点ずつ少なくなり（146～130点）、12位から最下位までは3点ずつ少なくなったポイントが与えられる（127点～）。また決勝中に1回でもトップを走ったドライバーに5点、さらにもっとも多くトップを走ったドライバーには5点が加算される。



ロードコースではバンパーにブレーキ冷却用ダクトを設ける。

給油、そしてタイヤ交換 迫力のピットワークを見る

NASCARの決勝レースのスタートは、ベースカーの先導によるローリングスタート。2列縦隊のストックカーが、いっせいにスタートする様は圧巻の一言だ。

500～600マイル（約800～960km）の距離を走るNASCARでは、もちろん途中ピットインがあり、タイヤ交換とガス補給が必要になってくる。このピット作業もレース以上に見ものなのだ。

ピットレーンで作業をしているのは7人まで。それぞれタイヤ、ジャッキアップ、ガス補給などの役割が決められている。タイヤ交換は5個のボルトを外して行われ、ガソリンはミルク缶のようなガス缶からの自然落下式。それでも各車20秒程度でピット作業を終えるのだから驚きだ。なお交換用タイヤのホイールには、ボルトがバンドで止められており、いちいちボルトをはめなくてもいいように工夫されている。一瞬を争って展開されるピット作業も、レースに負けない迫力を持っているのだ。



ピットウォールの外からフラシでクリルなどをクリーンク



レース毎に日替わりヒーロー トップドライバーの層は厚い

NASCARの最高峰クラスであるウィンストン・カップに出場しているドライバー。その中でもトップクラスのドライバーは、人気実力ともに兼ね備えたスーパードライバーだ。そんな彼らの今年の戦いぶりを振り返ってみたい。

開幕前にはデイル・アーンハートの、8度目のタイトル獲得(新記録)に注目が集まったが、結局それは来年以降に持ち越し。タイトルは95年チャンピオンのジェフ・ゴードンと、チームメイトのベテラン、テリー・ラポンテが最終戦まで争い、ラポンテがチャンピオンとなった。

彼らの他にはデイル・ジャレットが、ビッグイベントで勝利を重ねてトップコンテNDERとしての地位を不動のものとし、瀕死の事故から復活して初めてのフルシーズンを戦ったアーニー・アーバンが復帰後初勝利と数多くのドラマが生まれた。年間31戦もあるウィンストン・カップでは、毎戦ごとにヒーローが入れ替わるのだ。



激しいタイトル争いを制したテリー・ラポンテ。



若きヒーロー、ジェフ・ゴードンは昨年のチャンピオン。

クラッシュ、即ペースカー 決勝レースは止まらない

ときには接触してしまうくらいの激しいバトルが展開され、ハイスピードアベレージを保ったまま戦われるNASCARでは、一瞬のミスがアクシデントにつながってしまう。

レース中にクラッシュなどが起きた場合、ペースカーがコースインし、コース上がクリアになるまでペースカーランが行われる。ペースカーの後ろに続く隊列は2列縦隊で、トップと同一周回のクルマが片側に、もう片方には周回遅れのマシンが並ぶ。

このペースカーランはクラッシュだけでなく、コース上にオイルがある場合などにも行われる。

なおペースカーのルーフについているフラッシャーが消えるのが「次の周にスタート」という合図になっており、それを知っている観客たちは、「また接近戦のバトルが楽しめる!」とばかりに、再び大歓声を上げるのだ。

クラッシュしたマシンは、ペースカーランの最中にコース上から排除される。ちなみに下の写真のドライバーはジョー・ネメチェック。



**GET
VERY
EXCITED**
America's
Ultimate
Motorsport



ここからエンジン、サスペンション、ボディなどの各パーツを取りつけ完成させるのに約2週間。シボレー、フォード、ポンティアックとあるが、フレームの構造はどこもほぼ同じだ。

一皮めくれば大迫力のマシンは純レースメイド

外見はまるで市販車のようなカッコをしているとはいえ、NASCARマシンは市販車ベースではなく、純粋なレーシングマシンとして作られている。フレームは鉄パイプを組み合わせたもので、そこにエンジンやサスペンションなどを取りつけ、上からスチール製のボディを被せれば、NASCARマシンの完成だ。

フレーム形式は基本的にどのチームも同じだが、補強を入れる箇所などに独自のノウハウが生かされている。搭載されるエンジンはV型8気筒オーバーヘッドバルブ(OHV)で排気量は約5.7ℓ。最高出力は700馬力以上で、ミッションはマニュアル4速が採用されている。

タイヤは現在グッドイヤー1社のみが供給している。なおアメリカでのNASCARレースは雨天時は開催されないため、レインタイヤは用意されていない。雨でも開催される鈴鹿には、特別に溝をほったレイン用タイヤが持ち込まれる。



●シボレー・モンテカルロ



●フォード・サンダーバード



●ポンティアック・グランプリ



NASCARエンジンの燃費は1リットルで約1.8キロ程度。



ホイールの材質はアルミでもマクネシウムでもなく鉄製だ。



走行中はここにネットを貼り、ドライバーを保護する

IT'S SHOW TIME

THUNDER SPECIAL 1000

熱狂! 興奮! 迫力! の50Laps x 2

アメリカでNo. 1の人気を誇るモータースポーツ
NASCARが鈴鹿にやって来た! 700馬力を超す
アメリカン・ストックカーが鈴鹿・東コースを激走
未体験の迫力に、興奮・熱狂間違いなしだ

The machines of NASCAR, the most popular motorsport in the United States, have arrived! Qualifying sessions for this race will be done American style. Each driver is entitled to run alone on the track for his flying laps. The starting grid is determined by a special qualifying formula called "Three-lap Qualifying." The drivers are classified by combining the time achieved on the track and the time required for the pit work. On Sunday, a fierce battle is inevitable from the very start to the checkered flag. Overtaking is highly likely at the First Turn of Suzuka's East Course. Also in the S-Turn, drivers will make every possible effort to beat their rivals. They will surely take chances when the driver in front fails to keep his line, the pursuer will poke his nose inside without any hesitation or delay. For the drivers of NASCAR all areas of the track are passing zones. What will add fuel to flaming battles is a special rule that has been set especially for this event at Suzuka. The starting grid for the second segment will be determined by the "inverted formula". The fans will determine whether the grid is formed according to the order of the first segment, or elect to invert the top ten places of the grid for the second segment. Expect sheer American competition from the instant you hear, "Gentlemen, start your engines!"



ついに、アメリカンV8の咆哮が日本の空に轟く日がやって来た! アメリカで最も人気のあるモータースポーツ、NASCARウィンストン・カップのマシンが、鈴鹿に上陸。本場の雰囲気そのままに、グリーンフラッグが振り下ろされる時を待っている。NASCARマシンはショールームに並ぶ市販モデルとほぼ同じシルエットを持つが、ボンネットの下には限界までチューンされ700馬力以上の怪力を発生する5.7リ

ッターV8エンジンが搭載されている。ハコ型ボディにF1やインディカーとも肩を並べるハイパワー。これを聞いただけで、迫力の走りが約束されているのが分かるはずだ。「優勝候補が多く、誰か勝つかまったく分からない」。これが「アメリカンレースのキーワード」だ。ウィンストン・カップでは、ハイテクを制限してマシン間の実力差を最小限に抑え込んでいる。技術競争よりも、ド

ライバーの腕、チームの力といったソフトの部分で勝負は決するのだ。目にも鮮やかなカラーリングを施されたマシンは、約1.5トンとツーリングカーの約1.5倍、F1の3倍近い重量がある。だからコーナリングスピードは決して速くはない。しかし、出場するすべてのマシンに実力差がほとんどないからこそ、ストレートでもコーナーでも、コース全域で接近戦が展開されるのだ。

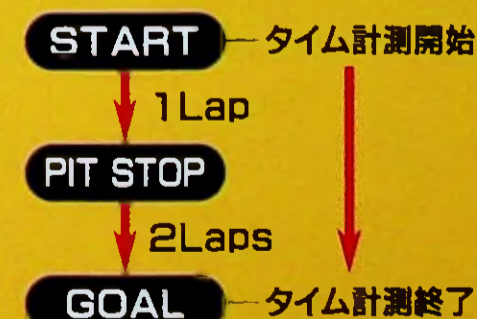
また、マシンの重さは、いったんスピードに乗った集団がいっせいにコーナーへと殺到する時、見る者に恐怖感すら感じさせるほどの圧倒的迫力を生み出す。押しのけられた空気がスタンドにいる我々の肌を震わせ、ボディやタイヤ同士の擦れ合う音が耳に届くはずだ。日本ではまだなじみの薄いNASCARのトップドライバーたちが、来日メンバーの顔ぶれはそうそうたるものだ。7度のタ

NASCAR
Suzuka

イトル獲得経験を持つアメリカズ・ナンバー1、デイル・アーンハートを筆頭に、若きチャンピオン、ジェフ・ゴードン、デイトナ500で2度の優勝経験を持つデイル・ジャレットとスターリング・マーリン、タイトル獲得経験のあるラスティ・ウォレスやテリー・ラポンテ……いづれ劣らぬスーパースターたちである。彼らのアメリカでの人気は、野球、フットボール、バスケットボールの有名選手たちに一歩もひけを取らない。その強豪ドライバーたちに日本人ドライバーたちが挑戦する点も興味深い。中でも

ピット作業も予選のうち! 3Laps+タイヤ交換の真剣勝負

土曜日の午前11時30分から始まる公式予選もこれまでの日本のレースにはない、新しいシステムが採られている。マシン1台ずつがタイムアタックを行う方法は、フォーミュラ・ニッポンなどでおなじみだが、今回はそれに、ピット作業という要素を加え、さらにエキサイティングな予選となっている。マシンはピットロードからコースイン。1周回ってコントロールライン通過時点でタイム計測開始。ここからが予選のスタートだ。1周回ってピットイン。コントロールタワー前あたりのコース上で、前後タイヤ交換(グラブスタンド側の2本のみ)とガスチャージを行いピットアウト。さらに2周回ってチェッカーを受ける。ここまでの3ラップ+ピット作業のトータルが予選タイムとなるため、ドライバーの腕だけでなく、チームの総合力が問われる。しかもNASCARマシンのホイールはスチール製で、ナットは5本。その交換を瞬時に終えてしまうのだから、まさに神業。



NASCARトップドライバーの集中力を覗いてみよう。

われらがニッポンのドライバーがNASCARに殴り込み!

NASCAR日本初開催のTHUNDER SPECIAL 1000には、シリーズ頂点のウィンストン・カップを戦うトップドライバーが多数参戦してくる。その強豪たちを迎え撃つのが土屋圭市、福山英朗、中谷明彦、



脇田一輝。アメリカで行われた厳しいテストにパスし、NASCARライセンスの発給を認められた日本人ドライバー4人だ。中でもご存じ「ドリキン」土屋圭市は、ジャパン・チャレンジとして高橋国光監督率いるオール日本人チーム「チーム国光」で、初のNASCARに挑む。全日本GTやツーリングカーで活躍中のこの4人のドライバーが、NASCARのトップドライバー相手にどんな走りを見せるか。コースを熟知しているドライバーだけに期待十分だ。さあ、本場アメリカの観客に負けない大声援を送ろう!

テストはオーバルとロードコースを舞台に行われた。

“ドリキン”土屋圭市はチーム国光からのエントリーで、クルー全員が日本人だ。彼らのチャレンジング・スピリットにも注目したい。

さて、日本初開催の今回は、予選もアメリカ流で行われる。アタックは1台ずつがコースを専有して行う。全員が一度にコースを走る方式では、いつ誰がアタックしているかが多少分かりにくい。その点、シングルカー・クォリファイなら、誰の目にもそれが明白だ。さらに“3Lapsクォリファイ”と名づけられた今回の予選では、タイムアタックとピット作業の合計タイムで順位を決定する。チームワークが常に重視されるアメリカン・レースならではの予選方式と言えるだろう。

予選では、片輪を浮かせての走りをSタ

ーンに見に行くのもいいだろう。ビッグパワーで上り坂をぐいぐいと上っていく姿は、今まで日本を走ってきたレーシングマシンとはまた大きく異なり、迫力満点だ。

ピット作業も必見だ。1輪につき5個のラグナットを持つストックカーだが、それ



らを目にも止まらぬ速さで外し、新しいタイヤへと交換して見せるピットクルーたち。彼らの熟練したテクニックは、グランドスタンドからチェックできる。

決勝レースは、NASCARならではの抜きつ抜かれつの熾烈なバトルがスタートからゴールまで続くだろう。ファーストターンへのブレーキングは鈴鹿の東コースで一番のパッシング・ゾーンとなる。また、重いマシンで駆け上がって行くSターンでも、ウィンストン・カップ・ドライバーたちは果敢に前のポジションを狙っていくだろう。相手が一瞬でもラインを外せば、躊躇なくノーズをねじ込む。それがNASCAR流。彼らにとっては、コース上すべてがパッシング・ゾーンなのだ。

白熱のバトルをさらにヒートアップさせ



インバートさせるか、させないか。第2セグメントのスタート順を決めるのはキミたちだ!

決勝は第1、第2セグメントそれぞれ50周の2ヒート制。決勝のレースシステムでおもしろいのは、第1セグメントの結果で第2セグメントのスターティング・グリッド順が決まるわけではないところ。第1セグメントの1位~10位までの順位を逆にして(つまり第1セグメント勝者は第2セグメントでは10番手グリッドとなる)スタートするインバート(入れ替え)方式が採用されているからだ。ただし、インバートさせるか否かは、観戦席のファンの希望で第1セグメント終了後に決まるという画期的なシステムだ。インバートされることが決定すれば第2セグメントも、さらに迫力の接近戦必至。なお、最終結果は第2セグメントの順位で決定される。



レースはローリングスタートで開始される。全車いっせいに加速、ファーストターンへ飛び込む迫力のシーンを見逃すな!



るのが、鈴鹿でのスペシャル・ルールである「インバート(入れ替え)方式」だ。100周の決勝レースを50周ずつの2セグメント(ヒート)に分け、第2セグメントのスターティング・グリッド(通常なら第1セグメントのフィニッシュ順位どおりとなる)を観客席のファンの要望より、トップ10の順位をインバートさせるか、させないかを決定するというものだ。これで接近戦がさらに激しさを増すのは間違いない。

ヘビーウェイトのマシン群が集団のまま

ファーストターンへとなだれ込むスリリングなシーン。2セグメントに分けられたことによって、我々はこれを確実に2回、目にする事ができるのだ。

レースでは、数台が後続を引き離す展開になる場合も考えられるが、もしそうであっても決してゴールまで目を離すことはできない。アクシデントが発生すれば、コース全域が追い越し禁止のフルコース・コースションとなり、ペースカーが導入される。そもそも大量リードなど築くことが難しいアメリカンレースだが、万が一それができたとしても、ゴールまで油断することなど許されはしない。コースがクリアになったところで再スタート。フルコース・コースション前に苦しい走りを強いられていたドライバーが、ピットストップを行ってシャシー

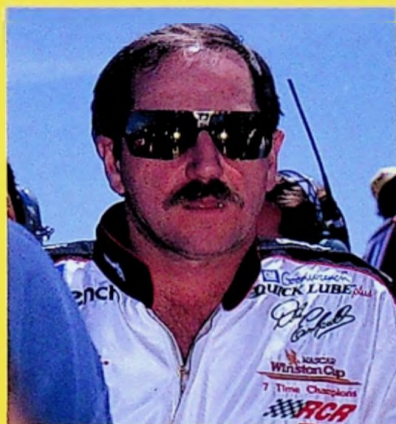
のセッティングを調整、グリーンフラッグ後に大きく躍進することも起こり得る。50周×2のレースとなるTHUNDER SPECIAL100では、最後まで逆転のチャンスが残されているのだ。

さあ、スタートからゴールまで、一瞬たりとも気の抜けないアメリカン・バトル。「ジェントルメン、スタート・ユア・エンジンス！」の合図でスタートが切られる。

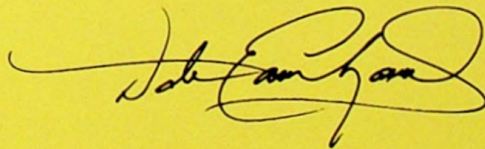


チャンピオン獲得7回! テイル・アーンハートの鈴鹿コースインプレッション

このレースの舞台となるのが、鈴鹿サーキット東コース。1周1.40マイル(2.24km)のショートコースだ。鈴鹿でデモ走行を行ったテイル・アーンハートによれば、オーバルコースの要素を持ったコースだという。



1951年4月29日、ノースカロライナ州カナポリス生まれ。1979年ウィンストン・カップ・ルーキー・オブ・ザ・イヤー。1980、86、87、90、91、93、94年ウィンストン・カップ・チャンピオン。タイトル獲得7度は歴代1位タイ。通算70勝(現役2位/歴代6位)。95年ウィンストン・カップ2位。96年ウィンストン・カップ4位。



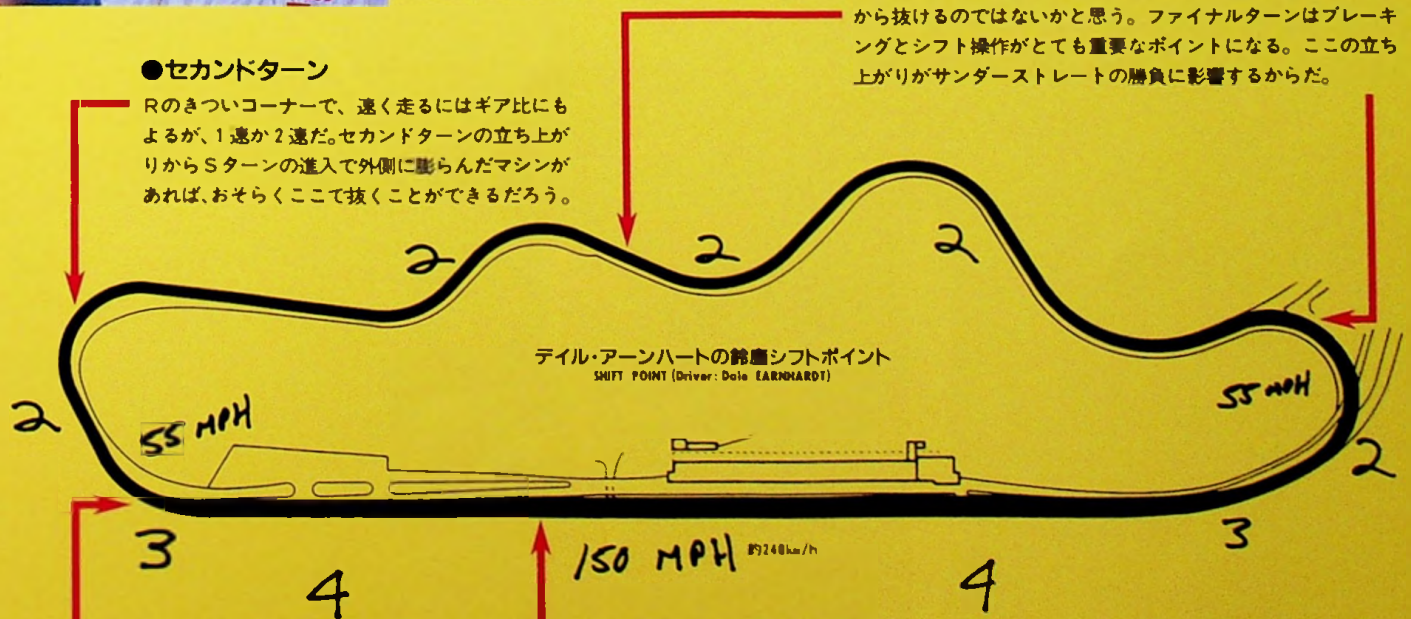
IT'S SHOW TIME

●セカンドターン

Rのきついコーナーで、速く走るにはギア比にもよるが、1速か2速だ。セカンドターンの立ち上がりからSターンの進入で外側に膨らんだマシンがあれば、おそらくここで抜くことができるだろう。

●Sターン&ファイナルターン

Sターンはかなり大きなラインで走ることができそうだが、ファイナルターンの進入で早めにブレーキをかけたマシンをイン側から抜けるのではないかとと思う。ファイナルターンはブレーキングとシフト操作がとても重要なポイントになる。この立ち上がりがサンダーストレートの勝負に影響するからだ。



●ファーストターン

スタートではここでなるべく順位を上げたい。マシンのコントロールが難しく、ラインを外しやすい気の抜けないコーナーなので、あまり速いスピードでは進入したくない。2速か3速で回ることになると思う。

●サンダーストレート

240km/hは出るはずだが、ドライバーはどこで追い越しをかけるか作戦を練っているだろう。ここではパワー勝負となるが、ファーストターンへのブレーキングとシフト操作が重要となる。ファーストターンへの進入は最も重要なポイントだ。



勇者に捧ぐ。

全米の勇者たちが鈴鹿にやってくる。彼らの脳裏には、世界屈指のテクニカルコースをいかに速く走り抜けるか、それしかない。その鈴鹿サーキットは、私たち日本舗道が速さと安全性を徹底的に追求して作った地上最速のドラマのための舞台。トップドライバーたちが超一流のテクニックを存分に発揮できるように、先進の技術を活かして構築した、まさに勇者のための栄光のステージなのである。

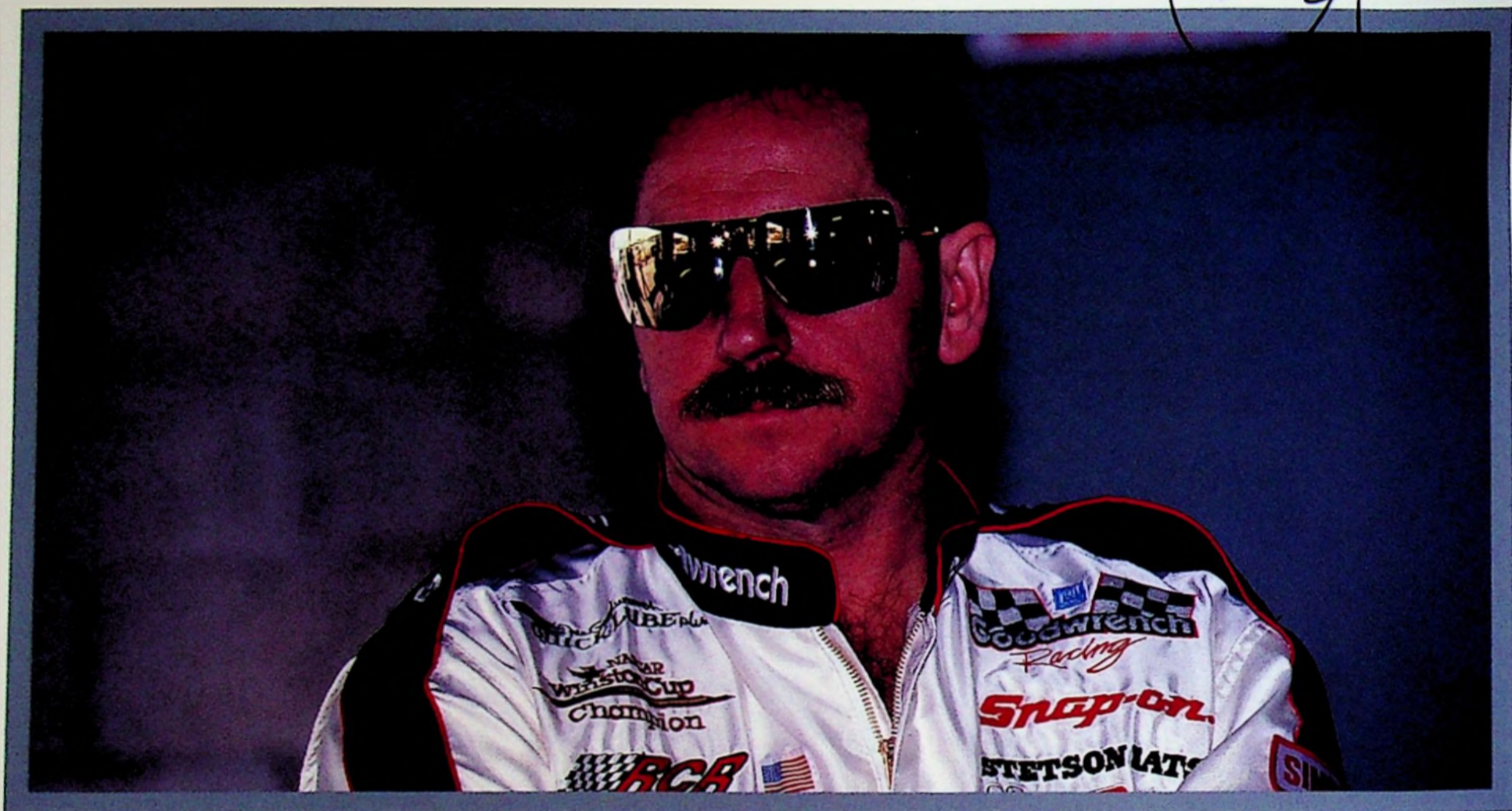
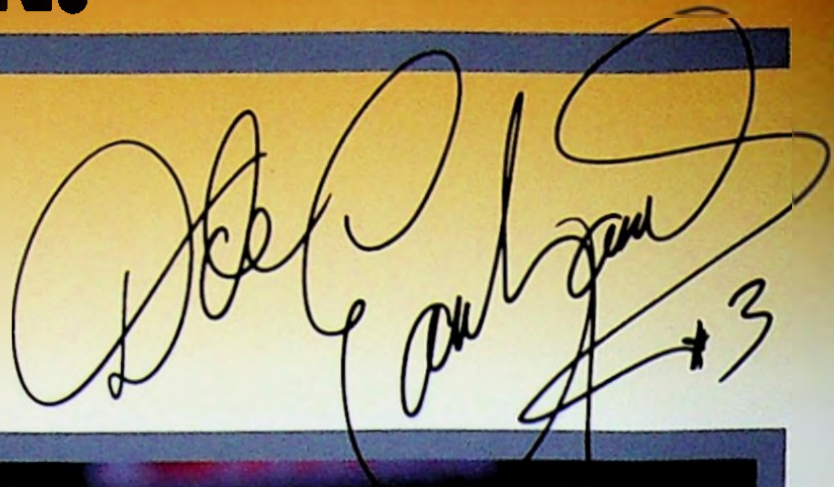
夢の舞台を作る— 私たちは日本舗道です。

Let's have SOME FUN!

● テイル・アーンハート

DALE EARNHARDT

鈴鹿で96年最後の勝利を手にして
その勢いを来シーズンへつなげたい



待ちに待ったこの日がついにやって来ました。昨年、このレースの噂を耳にしてから、今日の日を楽しみにしてきました。そして、その後何度か日本へ足を運んだ後に、現実のものとなったのです。

私はこれまで2回鈴鹿サーキットを訪れていますが、それが他のドライバーに対してアドバンテージになるとは考えておりません。我々はかなりオープンな関係で、ギアレシオなど私が鈴鹿で学んだことはすべて共有し合っているからです。でも鈴鹿で

は優勝を狙っているのです、本当はあまり教えたくなかったんですけどね(笑)。

鈴鹿は素晴らしいトラックで、コース全体を把握するにはもっと走り込む必要がありますが、東コースだけを走行するのでその点は心配ない。ファンのみなさまには、すべてを見てほしいと考えています。日本のファンのみなさんに、これから目にするNASCARを気に入っていただくことが、私たちドライバー全員の望みなのです。

1月の「モータースポーツ感謝デー」で

鈴鹿を訪れた時、レースでもないのに大勢の人が詰めかけていることに驚きました。そして、日本のモータースポーツファンは非常に熱心だということを知りました。

今シーズンは我々にとって素晴らしいものでしたが、満足できるものではありませんでした。何勝かはしましたが、チャンピオンシップは獲得できなかったからです。ですから、NASCAR鈴鹿 サンダースペシャル100で優勝して、来シーズンにその勢いをつなげたいですね。

Dear Race Fans

I'm glad this time has finally come. We've been looking forward to this race for a little more than a year now when we first started hearing rumors about this deal. Well, a year and a couple of trips to Japan later, we're here for the real thing.

We already have seen what the other drivers in this race have not and that is that the Japanese motorsports fan is a very dedicated fan. That's one of the reasons we're here, to bring our version of American NASCAR stock car racing to the knowledgeable fans of Japan.

I don't think my two previous trips to Suzuka Circuit will give me an advantage over the rest of the drivers in the race. We've been pretty open and shared pretty much everything we learned with everybody else, gear ratios and things like that. But I don't want to share too much, if you know

what I mean.

Suzuka is a good track, it would take longer to adapt if we were running the entire circuit, but running just the East Course speeds the learning curve up a little. We want the fans to see everything. That's important to all of us, that the Japanese fans like what they see. We hope they do.

When I was there in January for the "Thanks for Motorsports Fans Day" I was amazed at how many people turned out for an event that wasn't even a race. It proved to me everything I had heard about the Japanese motorsports fan. That they are very dedicated.

This season was a good one for us, but not as good as we had liked. We won a couple of races, but we're not really happy unless we win the championship. Maybe if we win the NASCAR Suzuka Thunder Special 100, it will hold us over until next season.

Snap-on[®] Japan



**November is
Racing Month!**

**Snap-on
Racing**

Tool Box CAMPAIGN

ツールボックスキャンペーン実施中



KRA/KRL シリーズ

キャンペーン期間/
1996年11月1日~12月30日

只今、スナップオン・ツールズでは
ツールボックスキャンペーンを実施
しています。数に限りがございます
ので、お早めにお求め下さい。

Version Up CAMPAIGN

バージョンアップキャンペーン実施中

只今、スナップオン・ツールズではツールボックスのバージョンアップ
キャンペーンを実施しています。

ツールボックス・キャンペーン及びバージョンアップ・キャンペーンに関してのお問い合わせは、スナップオン正規加盟店もしくは下記本社までお問い合わせ下さい。

**好評
発売中**



...there is a
difference
in Snap-on

デイル・アーンハート スペシャルナイフセット
DALE EARNHARDT SPECIAL KNIFE SET

ナスカー歴代タイ記録、7回のシリーズチャンピオンを獲得 現役トップドライバーとして
最強を誇るデイル・アーンハート FROST CUTLERY社製のデイル・アーンハート スペ
シャルナイフセットがスナップオンから発売!

¥14,200 (税別)

今、デイル・アーンハート スペシャルナイフセットをお買い上げの方に、スナップオン
ミニチュアツールボックスが抽選で当たります。(12月20日まで)

Snap-on スナップオン・ツールズ株式会社

本社/〒108 東京都港区港南3-5-12 TEL (03) 5463-1280(代表) FAX (03) 5463-1284
西日本支社/〒662 兵庫県西宮市今在家町3-6 一西宮INGビル7F TEL (0798) 26-1550 FAX (0798) 26-1580

Let's have SOME FUN!

●ジェフ・ゴードン

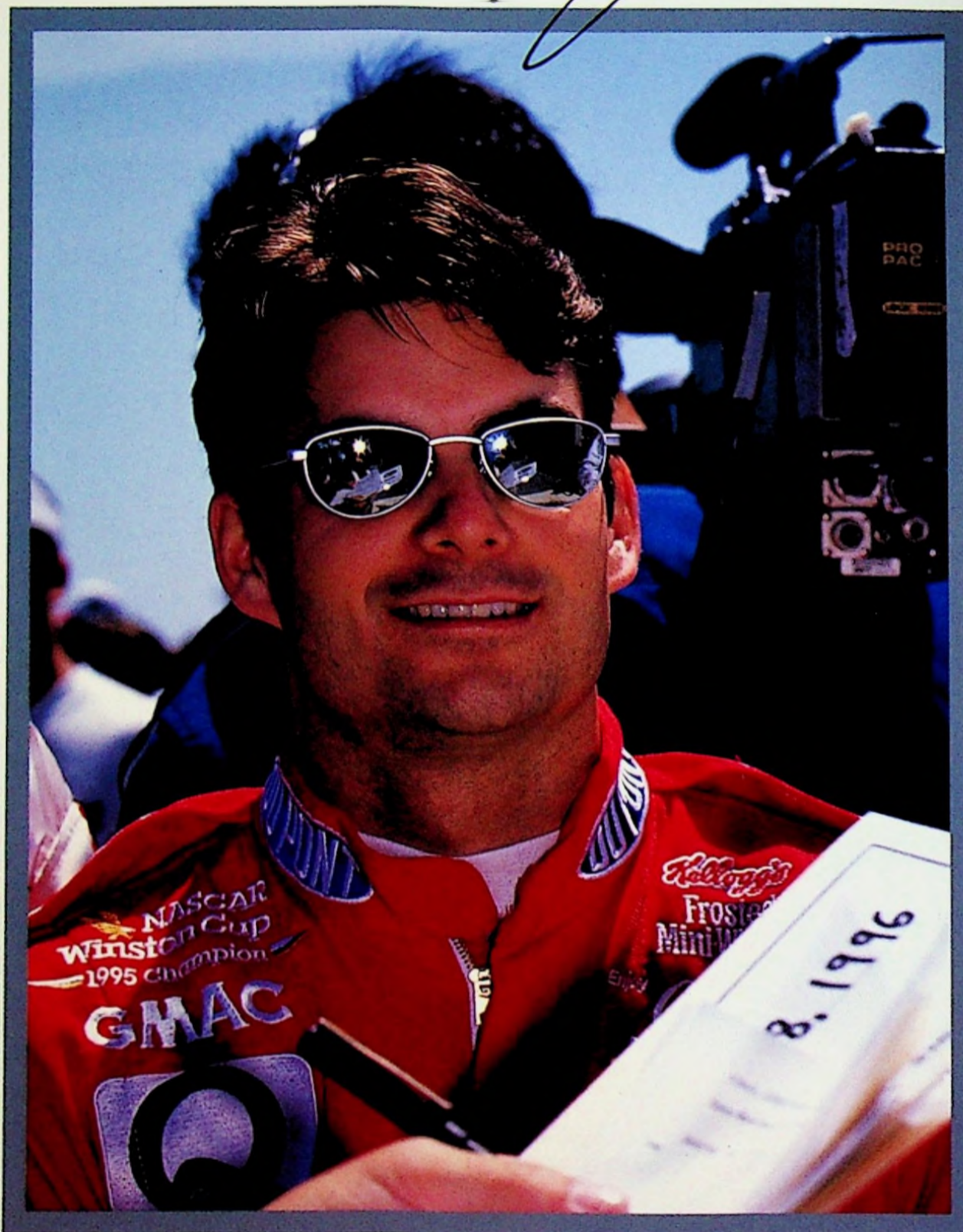
JEFF GORDON

最高のロードコース用マシンを持ち込み
確実に勝ちを狙っていくつもりだ

私 たちはNASCAR鈴鹿 サンダースペシャル100というレースに本当に興奮しています。海外でのレース経験は何度かありますが、日本へ行くのは初めてです。非常に興味深い日本の文化に触れるのが楽しみなので、遠征中は妻のブルックとともにあちこち観光して回ろうと思っています。

今シーズンはとても素晴らしいシーズンでした。チャンピオン争いに加わり、10勝を挙げることができました。シーズン当初は多少出遅れもありましたが、私たちデュポン・オートモーティブ・フィニッシャーズ・チームはすぐに復調、3月には3勝を挙げました。そして夏の間も好調を維持し、シーズン終盤までタイトル争いを繰り広げたのです。

日本でのレースへ向け、私たちはさらにトレーニングを積み重ねています。そして、いつも通りの素晴らしいショーをお見せするつもりでいます。また、普段よりもやや肩の力を抜いてリラックスし、楽しいイベントにできればと思っています。でも、ひとたびレースカーに乗り込んだら、激しいバトルをして優勝を狙うつもりです。鈴鹿には最高のロードコース用マシンを持ち込み、期待通りのレースになるように最善を尽くすつもりです。



Dear Race Fans

We're really excited about the NASCAR race at Suzuka Circuitland. I've had an opportunity to travel overseas to race but never before to Japan. Suzuka is a beautiful facility, and we're looking forward to showing the fans and people of Japan what NASCAR racing is all about.

At the same time, it's a great thrill to see different cultures, and I don't think there's a culture any more interesting than that of Japan. So my wife Brooke and I plan to do a lot of sightseeing during the trip.

We've had a lot of high points this season, winning 10 races and battling for our second championship. After getting off to a slow start in February, our DuPont Automotive Finishes team came back to win three races during the month of March. We stayed fairly consistent during the summer, winning three races in June and July. Then we really caught fire in September when

we won four out of five.

It's exciting to be competitive in a sport that's growing so fast, and I look forward to the future because it's going to get even better.

We'll practice a lot for the race in Japan. We're making the trip in the frame of mind that we're going to have fun, but we're going to put on a great show as we always do. We're also going to be a little bit more laid back and relaxed and make it a fun event -- fun for the competitors, fun for the fans, fun for everybody. But once I get in the race car we're going to be competitive and we're going to try to win. We're taking our best road-course car and we're going to do a lot of things to make sure we run up to our expectations.

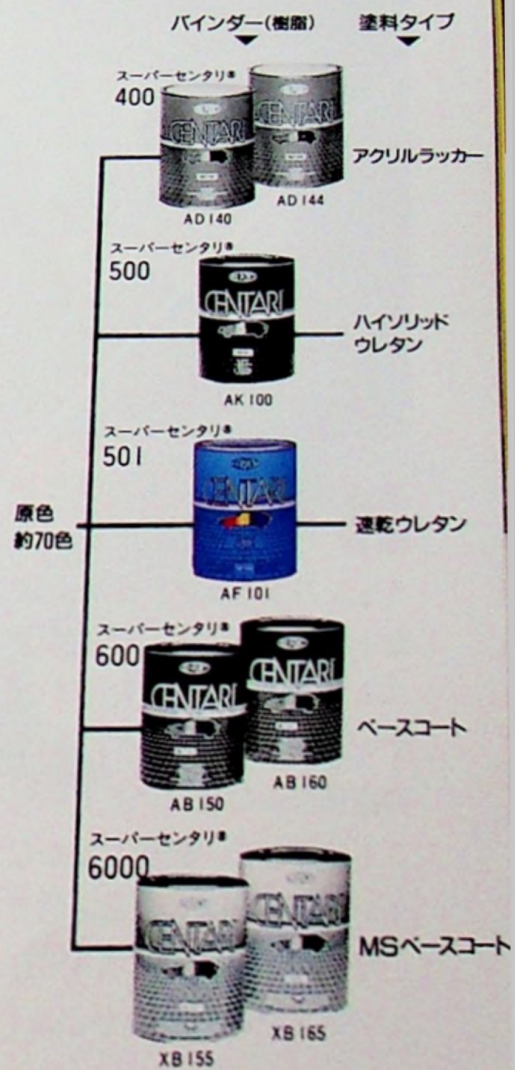
数ある速乾性ウレタン塗料の中でも
作業性と仕上りの良さで選ぶなら、
スーパーセントリ® 501。

デュポンから
新登場



配合比率4:1の
 新速乾性ウレタンバインダー。
 スーパーセントリ®501は、デュポンの最新
 樹脂テクノロジーから生まれた速乾性ウレ
 タン塗料(AF101バインダー)。
 ●4:1の配合比率によって、従来品では
 得られない次のような特性を実現しまし
 ました。●速乾性ですらゴミが付着しにくく、
 作業性/生産性を大幅に向上。●吹き
 艶がよい。●レベリングがよく、肌伸びが
 なめらか。●ポリッシング/コンパウンドかけ
 が容易。●従来の硬化剤(AK260)を
 使用できる。●耐候性に優れているため、
 塗装が長持ち。

さらに充実、
 世界唯一の「マルチレグ・システム」。



●お問い合わせはフリーダイヤル サービスで...
Tel.0120-307414

デュポン株式会社
 自動車関連製品事業部 塗料部
 〒224 神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1
 ☎はデュポン社の登録商標です。



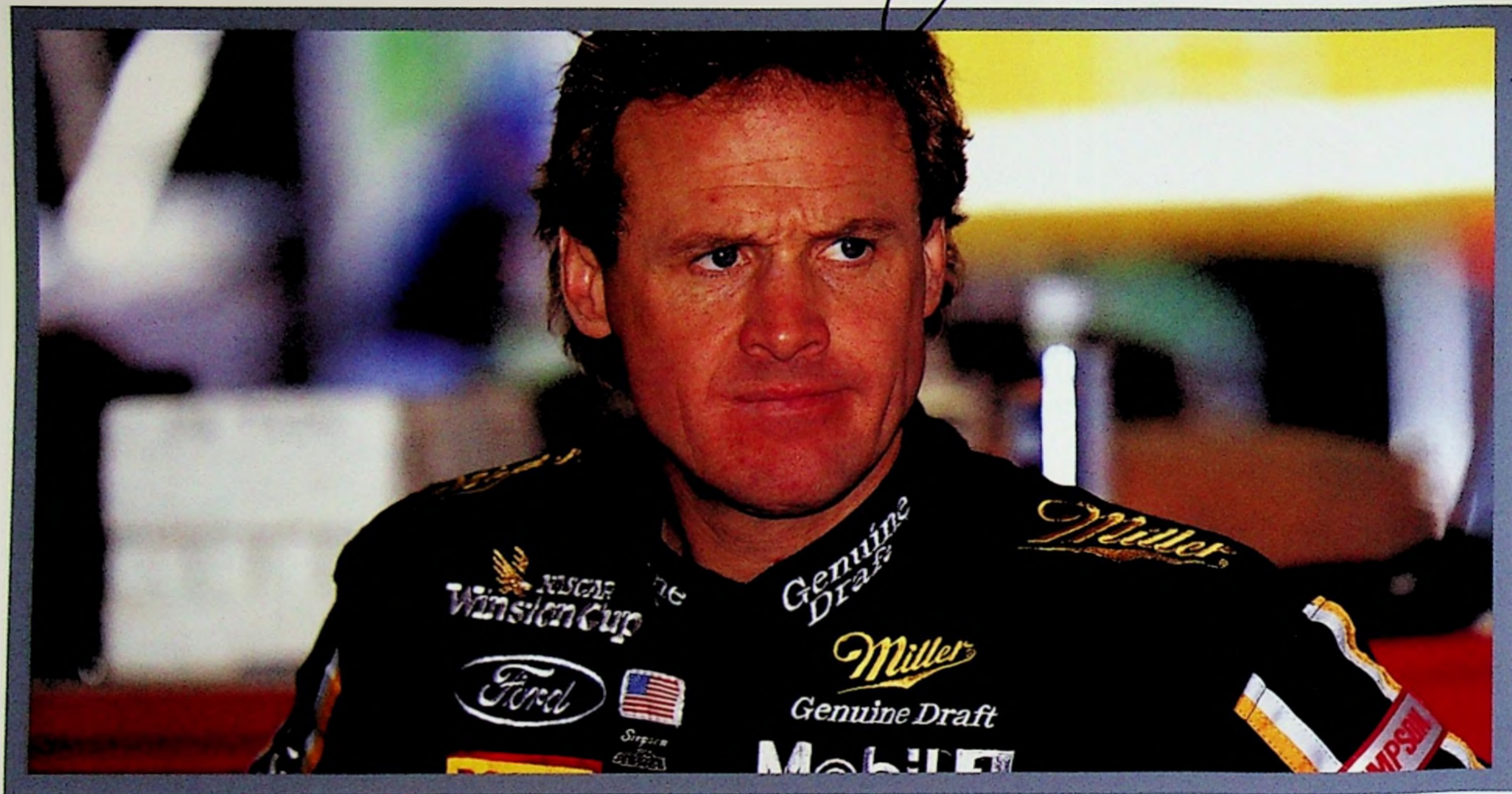
デュポン自動車関連製品

Let's have SOME FUN!

●ラスティ・ウォレス

RUSTY WALLACE

鈴鹿はかなりエキサイティングなレースになると思うよ!



鈴 鹿サーキットはすばらしいコースだ! ワトキンスグレンに若干似ているところもあるが、これまで私たちが走ったトラックとはまったく違うタイプだ。テストではいいタイムを出すことができたし、サンダースペシャル100の出場ドライバーに提供するためのテスト情報も確実に得ることができた。鈴鹿ではかなりエキサイティングなレースになると思うよ。

今回のレースは、NASCARウィンストン・カップの歴史の中で最も刺激的な進歩

だと思う。私はNASCARウィンストン・カップが真にアメリカを代表するモータースポーツと認知されるよう願っている。NASCARウィンストン・カップのレースを視たことがない人も、今回のレースで好きになってくれればうれしいよ。そして、アメリカに留まらず世界中にNASCARファンの輪が広がっていくことを願っているんだ。NASCARを日本に紹介すること、すなわち国際的な舞台へと進出することは、NASCARにすばらしい未来が待ち受けて

いることの証しになるんだ。

鈴鹿でのテストで、日本のみなさんがどんなにNASCARに対し胸踊らせているかを目の当たりにした。本番のレースが待ち切れないよ。ワイパーやブレーキランプを装備したマシンでのレース……言うまでもなくレインタイヤを使用して初めてのレースになる可能性もある……それが見たいためにテレビのスイッチを入れる、熱狂的なファンもきっといると思うよ! うーん、想像しただけでもドキドキするね……。

Dear Race Fans

As NASCAR Winston Cup racers embark on the Orient, their teams have put in overtime to ensure that everything will be ready for the NASCAR Suzuka Thunder Special 100 exhibition race. The Miller Team Penske is no exception, they, along with the Goodwrench Racing Team, have even set the standard for the other competitors.

In April of 1996, Winston Cup drivers Rusty Wallace and Dale Earnhardt made the trip to Suzuka City to test on the road course. Wallace, being no stranger to success on the road courses, took to the track immediately.

"No doubt about it," said Wallace. "This track is super! It's configured a bit like Watkins Glen, but really different from anything that we've ever run on. We turned in some pretty good lap times and we were really able to get a lot of regular test information that we could share with the other teams. It's going to be a very exciting race."

The experience of racing at a new track is stimulating in itself, but when the new track is in a foreign land, it becomes invaluable for those going. Wallace's crew chief, Robin Pemberton says that the "sushi bars, look out! Seriously, I feel that this is something that the fans, competitors, and even the media will talk about for a long time to come. Hey, we're making history here."

"This is one of the most exciting advancements to ever happen to NASCAR Winston Cup racing," added Wallace. "We want to grow to be considered a truly national sport. There are those who still look at us

and try to suggest that we're still just a regional sport with almost a cult following.

"Well, this venture stops all of that talk. Taking our sport to Japan certifies that we have reached national recognition and acceptance. For us to be moving internationally now shows what a great future our sport has.

"We saw just how excited the Japanese people are about our sport during the test we had. The track is a great place to showcase our competition. We can't wait to get there for the actual race. I'm sure that there are diehard Winston Cup fans who'll be tuning in just to witness the first time our cars have been raced, complete with windshield wipers and brake lights...not to mention the potential use of rain tires..."

"Wow! I get excited just thinking about it."

Entering the 1996 season, only two active drivers have won more races than Miller Team Penske driver Rusty Wallace. He has truly climbed to the highest plateau in his profession.

With 46 wins during his 11 years in the elite NASCAR division, Wallace ranks 12th on the all-time win list. Wallace was the 1984 Winston Cup Rookie-of-the-Year and 1989 series champion.

In addition to his passion for racing, Wallace has always been an aviation enthusiast, owning and flying four airplanes. He owns 28 percent of Penske Racing South, Inc. Wallace and his wife Patti have three children: Greg, 16, Katie, 11, and Stephen, 8. The Wallaces are moving into a new home located on Lake Norman, north of Charlotte.

WE RACE FOR Miller



ラスティ・ウォーレス率いるミラー・レーシングチーム。全米No.1の人気モータースポーツNASCAR(米国自動車競技連盟)レースで、過去3年間に20勝を記録した強者。今年も全米チャンピオンに向かって激走中です。ミラースペシャルは、ミラー・レーシングチームを初めて日本のレースファンの皆様にご紹介することを通して、未体験のダイナミックさとフレッシュな爽快感を味わっていただきたいと思います。



Miller[®]
Special

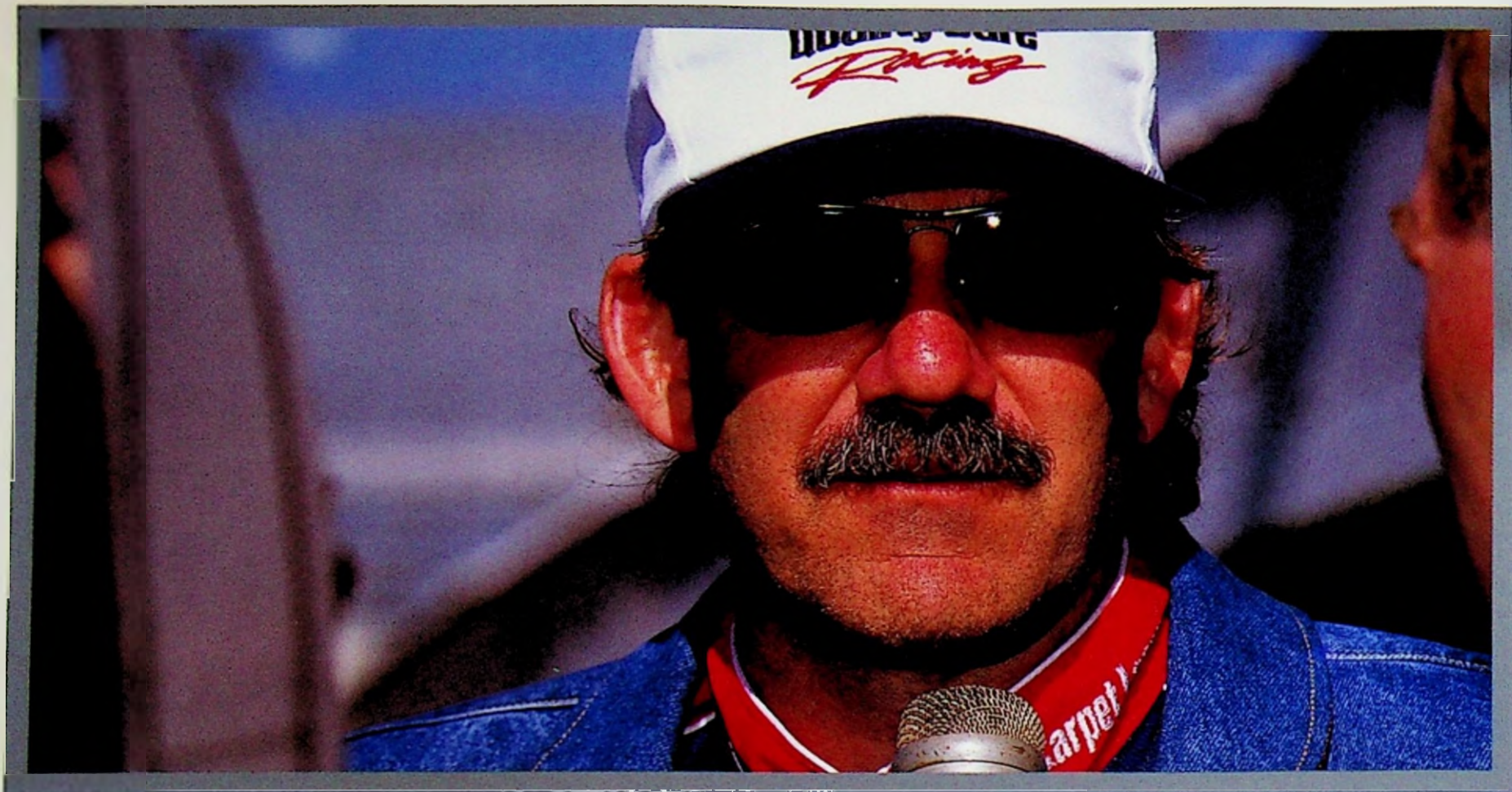
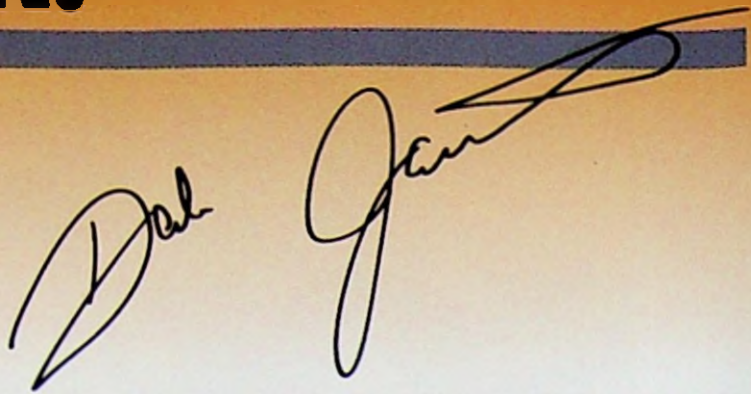


Let's have SOME FUN!

● テイル・ジャレット

DALE JARRETT

ファーストターンをいかに速く走るか
それが鈴鹿での勝敗を左右する



NASCAR鈴鹿 サンダースペシャル100は、シーズンのすばらしい締めくりになると信じています。96年は期待以上のシーズンにすることができました。デイトナ500の優勝でシーズンをスタートし、コカ・コーラ600とブリックヤード400でも優勝、ポイント上位5位以内でフィニッシュすることができたのですから。私がおもうに、これら3戦すべてに通じることは、我々が1日を通じて力強い走りをしたことで、いずれの勝利も決してフロックではありません。

せん。それが我々の実力なのです。

私は、NASCAR鈴鹿 サンダースペシャル100を非常に楽しみにしております。私はこれまで、ロードコースよりもオーバルコースで良い成績を取ってきました。しかし、私はいつもロードコースを走ることをエンジョイしています。鈴鹿の東コースのレイアウトは半分がロードコース、半分がオーバルの要素を持っています。おそらく、シフト回数はそれほど多くはないでしょう。どのドライバーがファーストターンを一番

速く走れるかが勝敗のポイントになると思います。

たぶん日本のみなさんは、V8エンジンを搭載した3,400ポンドのマシンがサイドbyサイドで走行するところを見るのは初めてだと思いますが、アメリカのファンと同じようにレースを思いっきりエンジョイしてほしいと思っています。私たちはこのレースに参加できることを感謝すると同時に、今回のレースを我々の今シーズンの勝ち星のひとつに加えたいと考えております。

Dear Race Fans

I think the NASCAR Suzuka Thunder Special 100 is going to be a good end to a good season. At least I hope so. We expected to have a good year in 1996, but I think we exceeded even the expectations we have for ourselves. To start the season by winning the Daytona 500 and then to win the Coca-Cola 600 and the Brickyard 400 and finish in the top-five in the points was a year beyond what we could have hoped for.

Winning the Daytona 500 for the second time was an unbelievable experience. The 600 and the Brickyard too. I think the neat thing about all of them was we ran strong all day and none of the wins were flukes. We earned them all.

I'm looking forward to the NASCAR Suzuka Thunder Special 100. I've been more successful in my career on speedways than road courses. But I

enjoy running road courses, and with the layout of the section of track we're going to run, it's sort of half-road course, half-oval. There probably won't be much shifting. I think a key will be which driver gets through Turn 1 the best.

I hope the Japanese fans enjoy the race. I think they will. I know most fans outside of the U.S., specifically in the Pacific Rim have not seen large, 3,400-pound cars with V-8 engines running side-by-side. I hope the Japanese fans enjoy it as much as the fans in America do. We appreciate the hospitality we've been shown in the weeks and even months leading up to the race. We appreciate the opportunity and hope to take advantage of it by adding this race to the wins we had this season.



Introducing



HIGH PERFORMANCE MOTOR OIL

76 NASCAR High Performance Motor Oil, the latest in a long line of premium motor oils with a proven track record.

Available at:

USC Limited
J-Tower 1-1, Nikko-Cho
Fuchu-Shi, Tokyo 183
0423-51-0011



76
NASCAR
HIGH PERFORMANCE MOTOR OIL

76 Motor Oils:
■ More NASCAR Winston Cup Wins than All Other Brands Combined
■ Chosen by Over 50% of Every NASCAR Winston Cup Starting Field
SAE 20W-50

76
NASCAR
HIGH PERFORMANCE MOTOR OIL

76 Motor Oils:
■ More NASCAR Winston Cup Wins than All Other Brands Combined
■ Chosen by Over 50% of Every NASCAR Winston Cup Starting Field
SAE 10W-30

76
NASCAR
HIGH PERFORMANCE MOTOR OIL

76 Motor Oils:
■ More NASCAR Winston Cup Wins than All Other Brands Combined
■ Chosen by Over 50% of Every NASCAR Winston Cup Starting Field
SAE 10W-40

I DRIVE TO WIN!

アーニー・アーバン

ERNIE IRVAN

不屈の闘志で、奇跡の復活を遂げた
"スワーピング・アーバン"

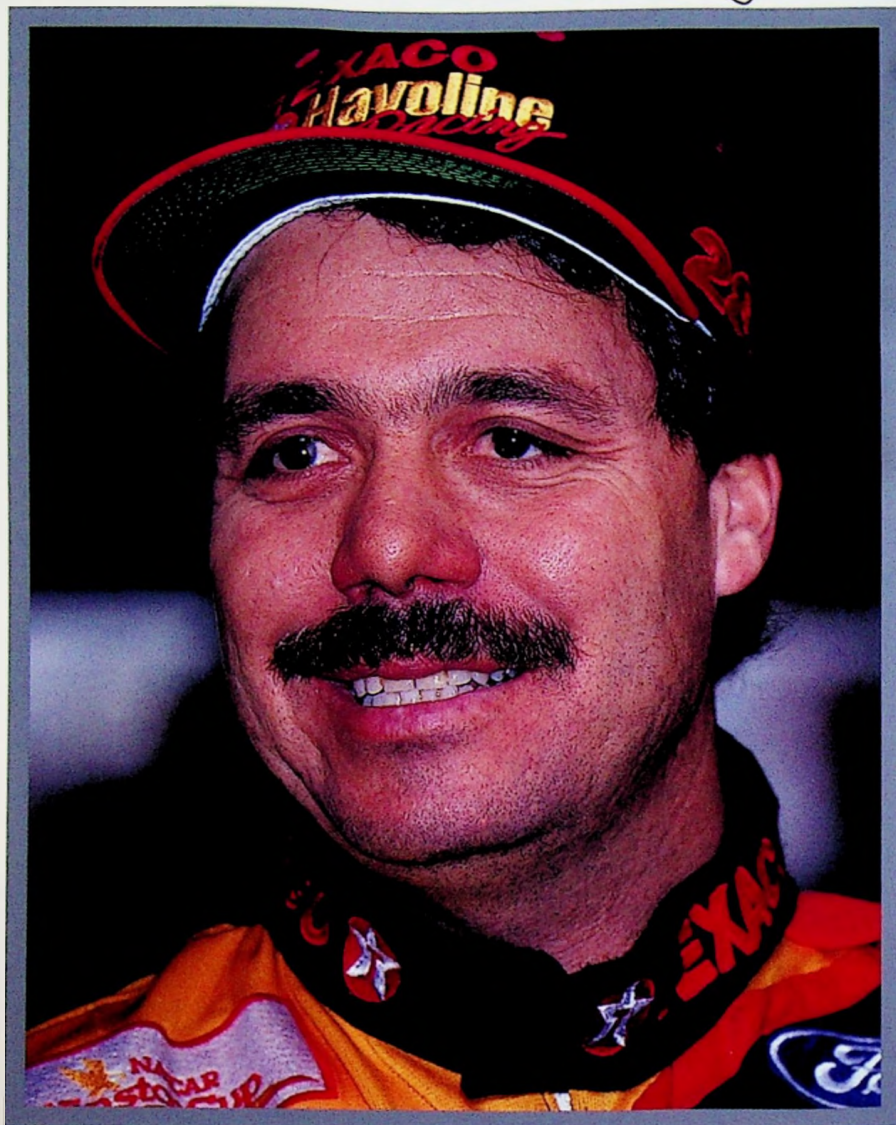
アグレッシブなドライバーが数多いウインストン・カップの中でも、アーニー・アーバンは飛び抜けた存在だ。リスクを恐れることなく、どこからでも勝負を仕掛ける。クラッシュもあり、「スワーピング（急激に曲がる）・アーバン」というニックネームを頂戴したが、それこそが彼のスタイルであり、彼がそのドライビングを変えることなどあり得ない。攻め抜く走りでの勝利をもぎ取るのが、アーバン流なのだ。

ウインストン・カップのデビューから4年目の90年、30度バンクのショート・トラック、テネシー州ブリストルで彼が飾った初勝利は、前年度チャンピオンのラスティ・ウォレスとの熾烈な戦いの末に勝ち取ったものだった。

91年にはデイトナ500でも勝ち、93年に現在のロバート・イエイツ・レーシングへ移籍すると、彼が本来持っていた速さに、強さが加わった。シリーズ最強と言われるイエイツ・チューンのエンジンを手に入れたからだ。

94年、アーバンはデイル・アーンハートとタイトル争いを繰り広げた。しかし、シーズンも終盤戦へと向かう8月、アーバンを不運が襲った。ミシガン州ブルックリンにある全長2マイルのスーパー・スピードウェイで、プラクティス中に右フロントタイヤがコース上の障害物を踏み、トレッドが切れて急にエアが抜けた。突如としてバランスを崩した彼のマシンは、180マイル以上の高速で真正面から壁に激突。頭と胸を強打したアーバンは、入院後の数日間、意識不明のままだった。

強打した左目の視力が著しく減退。頭部への衝撃も大きかったため、通常ならドライバーとして再びレースに出場するのは不可能と誰もが考えたが、アーバンだけは別だった。彼はサーキットで見せた闘志を保ち、復活だけを考えて辛抱強くリハビリテーションを続けた。そして退院後は、彼の替わりにテクサコ・ハボリン・フォードのドライバーに選ばれたデイル・ジャレットを、クルーチーフのラリー・マクレイノル



ズとともにエンジニアとして支えた。

そして、アーバン復活の日が訪れた。クラッシュから14カ月の長い時を過ごした後、ロバート・イエイツ・レーシングの2台目のフォードに乗り、ノースカロライナ州ノース・ウォルクスポロに出場。左目を眼帯で覆ったままで予選は7位。レースは500周の長距離で心配されたが、視界にも異常はなく、危なげなく走り切って6位でフィニッシュしたのだった。

今シーズン、ロバート・イエイツ・レー

シングのエースの座へと戻ったアーバンは、復帰後初の勝利をニュー・ハンプシャー州ラウドンで飾って見せ、奇跡的な復活ストーリーの第一章にピリオドを打った。

彼のアグレッシブな走りは、抜群のマシンコントロール能力とセットアップ能力に裏づけされたものだ。当然ロードコースでの速さにも定評がある。

ボンネットに大きな星が描かれた黒いフォード・サンダーバード、カーナンバー28の走りに、その闘志を感じ取って欲しい。



CALTEX



29戦終了時総合ポイント3位と9位

16戦中、V12達成

NASCAR、インディカーの実績が、 あなたのクルマに脈打つ。

ナスカー、インディカーは、市販のハボリンオイルを使っています。

オーバー800psのターボチャージドエンジンに、
真夏の炎天下で2時間以上、全開を強いるインディカー。

ビッグボアで730psをたたき出すNAエンジンに、
長時間連続してピークパワーを要求するNASCAR。

その実力を支えるオイル、その名は“ハボリン”。

アメリカン モータースポーツの名門の信頼に応え、
全米を駆け巡ったNASCAR、インディカーのパワーが、
いま、あなたのクルマに目醒めます。



ハボリンシリーズ

- フルシンセティック 5W-50
- フルシンセティック 5W-30
- セミシンセティック 10W-30
- フォーミュラ3 20W-50
- フォーミュラ3 10W-30
- デロCXJ 15W-40

PO-3シリーズ

- フルシンセティック 5W-30
- ミネラル 10W-30
- ミネラル 10W-40
- ディーゼル 15W-40
- ディーゼル 10W-30

季節・気温に応じて、この中からあなたのお車に最適なオイルをお選び下さい。
●日本石油S.S.、イエローハット、オートバックス、その他全国有名カーショップで取扱っております。



CALTEX

カルテックス・オイル・プロダクツ・(ジャパン)株式会社
〒107 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館12階

WE'RE PROUD TO MAKE JAPAN PART OF OUR RACING HISTORY.



AMERICA'S # 1 SELLING MOTOR OIL

総輸入発売元 株式会社 ペンゾイル・ジャパン

本部：〒460 名古屋市中区丸ノ内二丁目17番22号 大森石油ビル7階 TEL.052-232-3879・FAX.052-222-1747
本社：〒101 東京都千代田区内神田2丁目12番10号 水野ビル6階 TEL.03-3258-5783・FAX.03-3258-5784

ENTRY LIST

NASCAR
Suzuka

THUNDER SPECIAL 100

No.	Driver	Age	Sponsor/Car	Entrant
1	Keiichi TSUCHIYA 土屋 圭市	40	Japan Challenge Ford	Team Kunimitsu
2	Rusty WALLACE ラスティ・ウォレス	40	Miller Ford	Penske Racing South
02	Akihiko NAKAYA 中谷 明彦	39	US & Nippon Challenge Ford	US & Nippon Racing
3	Dale EARNHARDT デイル・アーンハート	45	ACDelco Chevrolet	Richard Childress Racing
03	Joe BEAN ジョー・ビーン	34	California Precision Chevrolet	Bean & Krebs Racing
4	Sterling MARLIN スターリング・マーリン	39	Kodak Film chevrolet	Morgan-McClure Motorsports
04	Hershel McGRIFF ハーシェル・マクグリフ	68	DANA Corp. Chevrolet	Tex Racing Enterprises
5	Terry LABONTE テリー・ラボンテ	40	Kellogg's Chevrolet	Hendrick Motorsports
07	Lance HOOPER ランス・フーパー	29	Cinema Vehicle Services/Unocal Pontiac	Ray Claridge Racing
12	Dan OBRIST ダン・オブリスト	50	Dombecker's Childrens Hospital Chevrolet	Dan Obrist Racing Team
15	Wally DALLENBACH ウォリー・ダレンバック	33	Hayes Modems Ford	Bud Moore Engineering
20	Kazuteru WAKIDA 脇田 一輝	28	Suzuka Challenge Ford	Collins Racing with Skill Speed
21	Michael WALTRIP マイケル・ウォルトリップ	33	Citgo Ford	Wood Brothers Racing
23	Hideo FUKUYAMA 福山 英朗	41	Team Camel Ford	Travis Carter Racing
24	Jeff GORDON ジェフ・ゴードン	25	DuPont Chevrolet	Hendrick Motorsports
28	Ernie IRVAN アーニー・アーバン	37	Caltex/Havoline Ford	Robert Yates Racing
30	Johnny BENSON ジョニー・ベンソン	33	Pennzoil Pontiac	Bahari Racing
31	Mike SKINNER マイク・スキナー	39	Snap-on Tools Chevrolet	Richard Childress Racing
37	Larry GUNSELMAN ラリー・ガンゼルマン	35	Racestuff/Olson Technology Ford	Race Stuff Motorsports
38	Butch GILLILAND ブッチ・ジリランド	38	Pro Insulation/Stroppe Industries Ford	Bill Stroppe Motorsports
42	Robby GORDON ロビー・ゴードン	27	Winners Circle/Tonka Pontiac	Team Sabco
45	Ron HORNADAY, Jr. ロン・ホナデイ・ジュニア	38	Tootiestoy Chevrolet	BMR Motorsports
50	Scott GAYLORD スコット・ゲイロード	38	BMR Motorsports Chevrolet	BMR Motorsports
61	Rick CARELLI リック・キャレリ	42	RE/MAX Chevrolet	Chesrown Racing
77	Bobby HILLIN ボビー・ヒリン	32	Jasper Motorsports Ford	Jasper Motorsports
88	Dale JARRETT デイル・ジャレット	39	Ford Quality Care Ford	Robert Yates Racing
95	David GREEN デイビッド・グリーン	38	Caterpillar Chevrolet	American Equipment Racing

COMPETITORS

ドライバー紹介

マシンは実際の出場マシンと異なる場合があります。
車名、チーム名は変更になる場合があります。

02 Akihiko NAKAYA

●中谷 明彦

US & Nippon Challenge Ford



1957年、東京都生まれ。80年筑波FL-Bでレースデビュー。フォーミュラとハコ車を器用に乗り分けるドライバーで、88年全国F3選手権チャンピオン、以後全日本F3000選手権や全日本スポーツプロトタイプカー選手権等で活躍。速さに加えの確な理論に基づいたドライビングが特徴。9月の全日本ツーリングカー選手権ではBMWを今季初優勝に導き注目を集めた。



US & Nippon Racing

1 Keiichi TSUCHIYA

●土屋 圭市

Japan Challenge Ford



1956年、長野県生まれ。77年富士フレッシュマンでレースデビュー。テールを絶妙にスライドさせながらコーナーを立ち上がる走りが特徴で“ドリフト・キング”の異名を持つ。近年は全日本ツーリングカー選手権、全日本GT選手権などで活躍。高橋国光率いるチーム国光でル・マン24時間への挑戦も続けており95年GT2クラス優勝、96年GT2クラス3位。

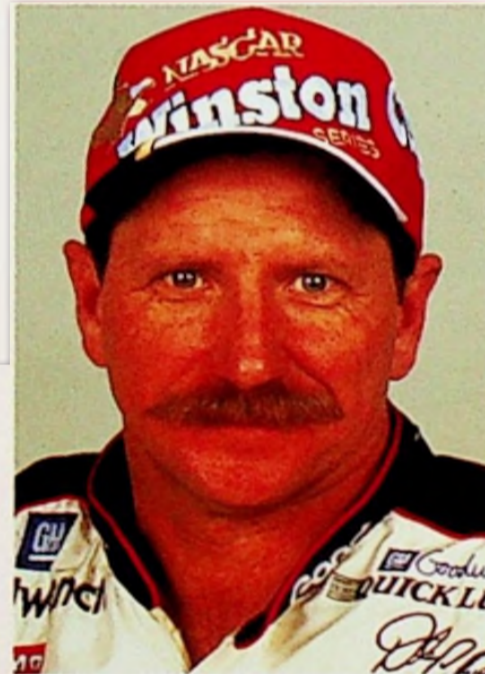


Team Kunimitsu

3 Dale EARNHARDT

●テイル・アーンハート

ACDelco Chevrolet



1951年、ノースカロライナ州生まれ。史上最多タイの7度のタイトル獲得歴を誇る。79年からフル・シーズン出場を始め、81年を除き毎年最低1勝を挙げ続けて通算70勝をマーク。接触をも恐れぬ攻撃的な走りでインティミデーター（脅迫者）の異名をとる。その圧倒的な強さで人気No.1だ。ウィンストン・カップではGMグッドレンチ・シボレーに乗る。

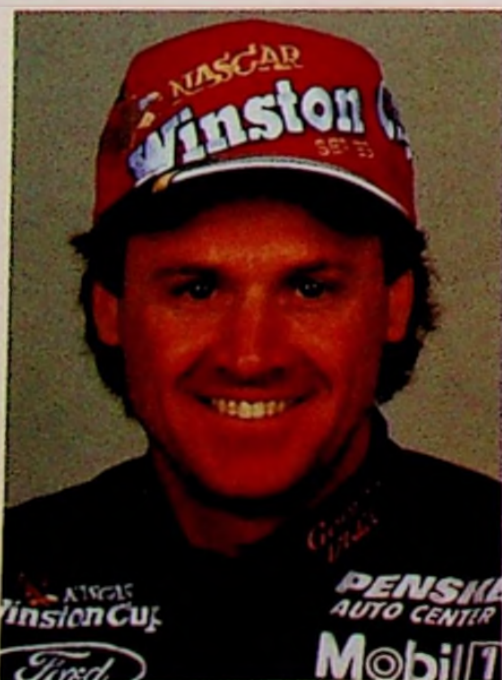


Richard Childress Racing

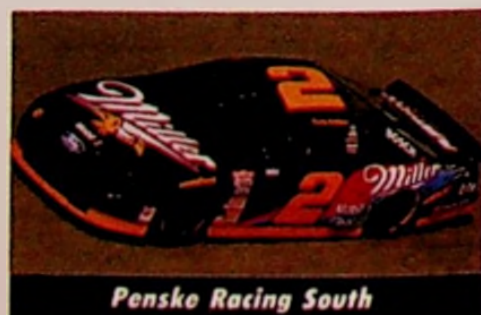
2 Rusty WALLACE

●ラスティ・ウォレス

Miller Ford



1956年、ミズーリ州生まれ。ウィンストン・カップのデビューをロジャー・ベンスキー所有のシボレーで果たし、いきなり2位入賞。89年にアーンハートとタイトルを争い、12点差で初のウィンストン・カップ・チャンピオンとなった。ロードコースを得意とし、今シーズンもシアーズポイントで開催されたセイブマート300で優勝している。



Penske Racing South

03 Joe BEAN

●ジョー・ビーン

California Precision Chevrolet



1962年、カリフォルニア州生まれ。ウィンストン・ウエスト・シリーズ参戦中。95年ランキング32位。



Bean & Krebs Racing

4 Sterling MARLIN

●スターリング・マーリン

Kodak Film Chevrolet



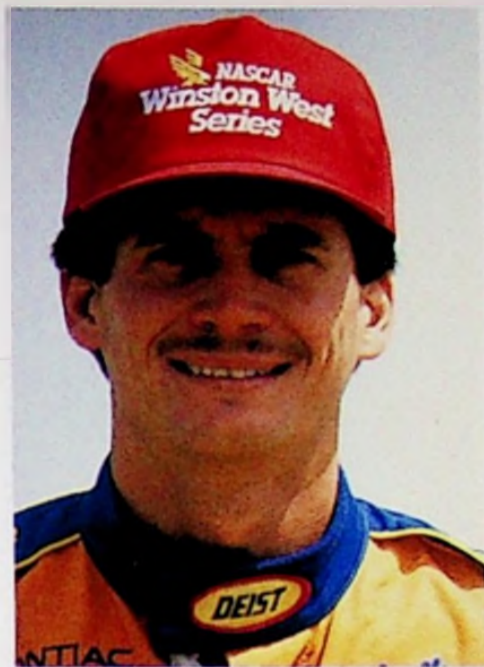
1957年、テネシー州生まれ。初優勝までが長かったが、それをシリーズ最大のイベント、デイトナ500で94年に達成。2勝目が翌95年の同じくデイトナ500。今年もタラデガ、デイトナで1勝ずつを挙げている。コダック・シボレーに積まれるモーガン・マクラア・レーシングのエンジンはシリーズ最強と言われる。



07 Lance HOOPER

●ランス・フーパー

Cinema Vehicle Services/Unocal Pontiac



1967年、カリフォルニア州生まれ。ウィンストン・ウエスト・シリーズに参戦中。95年はNASCARフェザーライト・サウスウエスト・ツアーのチャンピオンに輝いた。今年はクラリッジ・レーシングのポンティアックでウィンストン・カップにもスポット参戦を果たしている。



04 Hershel McGRIFF

●ハーシェル・マクグリフ

DANA Corp. Chevrolet



1927年、オレゴン州生まれ。1954年から長い歴史を持つNASCAR主催の西部シリーズ、ウィンストン・ウエストの86年チャンピオン。80年から10年連続ランキング・トップ10入りの実績を持ち、81年から92年まで12年連続ファン人気投票1位。



12 Dan OBRIST

●ダン・オブリスト

Dornbecker's Childrens Hospital Chevrolet



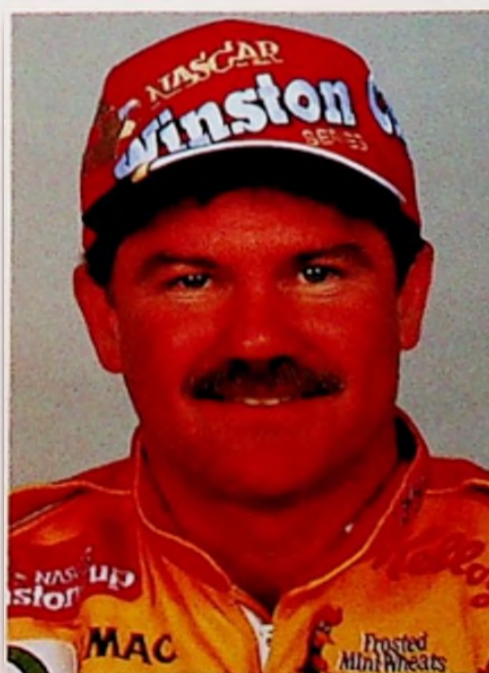
1946年、オレゴン州生まれ。86年にウィンストン・ウエストに参戦開始。9年目のシーズンとなる95年は、5回のトップ5入りと、10回のトップ10入りを果たし、ランキング4位。同年はウィンストン・カップにもスポットで出場している。



5 Terry LABONTE

●テリー・ラボンテ

Kellogg's Chevrolet



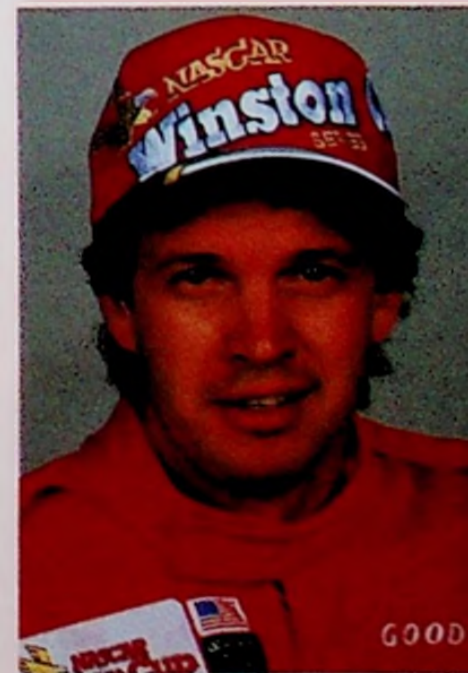
1956年、テキサス州生まれ。78年、ウィンストン・カップのデビュー戦で4位入賞し、84年に名將ジュニア・ジョンソンのチームでタイトルを獲得。94年に現在のヘンドリック・モータースポーツに移籍、ケロッグ・シボレーに乗り、優勝争いに再び食い込むようになった。96年、最終戦までもつれた激しいタイトル争いを制し、チャンピオンの座を手にした。



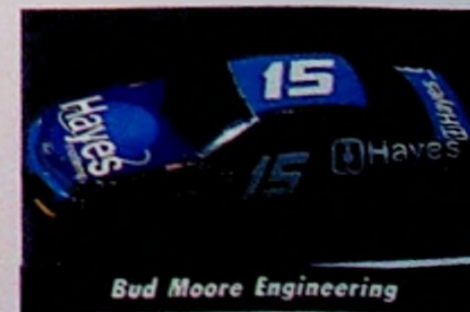
15 Wally DALLENBACH

●ウォリー・ダレンバック

Hayes Modems Ford



1963年、ニュージャージー州生まれ。父ウォリー Srはインディカー・ドライバーだった。ストックカー・レースのロードコース版ともいえるSCCAトランザムで85、86年にチャンピオンとなり、IMSA GTOでも活躍。92年からウィンストン・カップに本格的参戦を開始。まだ未勝利ながら、ロードコースでの速さはワトキンス・グレンでの2度の2位で証明済み。



20 Kazuteru WAKIDA

●脇田 一輝

Suzuka Challenge Ford



1966年、三重県生まれ。86年カートレースを始め90年FJ1600でフォーミュラレースデビュー。鈴鹿を中心に全国のFJシリーズで大暴れし、92年オートポリスFJ1600シリーズチャンピオン。93年は全日本F3選手権に参戦した。ハコ車レースの活躍も順調で、95年N1耐久クラス2のランキング2位、今年全日本GT選手権GT300クラスのランキング3位となった。



Collins Racing with Skill Speed

24 Jeff GORDON

●ジェフ・ゴードン

DuPont Chevrolet



1971年、カリフォルニア州生まれ。高校時代にミジェット&スプリントカーで国内チャンピオンとなりストックカーの世界へ。ブッシュ・シリーズでの活躍の後に93年からウィンストン・カップへのフル参戦開始。初勝利を2年目に挙げ、インディアナポリスで開催された第1回ブリックヤード400でも優勝。3年目の95年、24歳でシリーズ・チャンピオンとなった。



Hendrick Motorsports

21 Michael WALTRIP

●マイケル・ウォルトリップ

Citgo Ford



1963年、ケンタッキー州生まれ。兄ダレルはウィンストン・カップで3度チャンピオンになっている。NASCAR創立当時から参戦を続ける名門、ウッド・ブラザーズ・チームに今年移籍し、シットゴウ・フォードに乗り、85年のデビュー以来待ち望んでいるウィンストン・カップ初勝利を目指している。

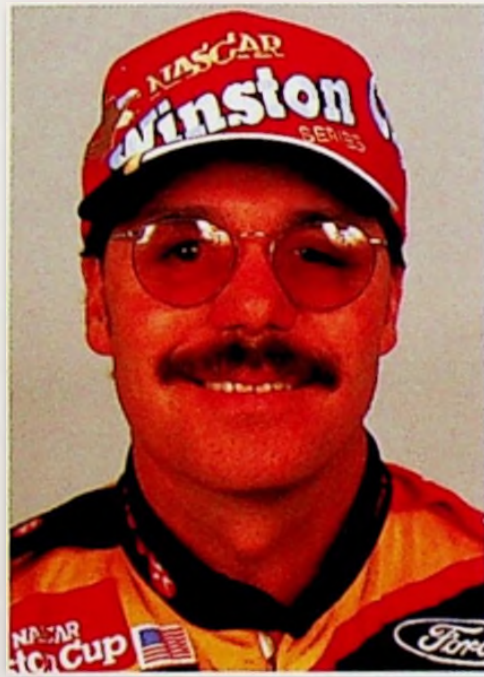


Wood Brothers Racing

28 Ernie IRVAN

●アーニー・アーバン

Caltex/Havoline Ford



1959年、カリフォルニア州生まれ。そのアグレッシブな走りから“スワーピング（急に曲がる）・アーバン”のニックネームを持つ。94年にミシガンでプラクティス中にクラッシュ。頭部に強い衝撃を受けて瀕死の重症を負い、レースへの復帰は無理と言われたが、95年終盤に奇跡の復活。そればかりか、今シーズンの第16戦で復帰後初勝利を飾った。



Robert Yates Racing

23 Hideo FUKUYAMA

●福山 英朗

Team Camel Ford



1955年、三重県生まれ。78年鈴鹿シルバーカップFL500クラスでレースデビュー。一步一步ステップアップを果たしてきた。近年はあらゆるハコ車レースに挑戦。92年全日本ツーリングカー選手権チャンピオン、93年N1耐久筑波12時間優勝、94年十勝24時間耐久優勝。95年からニスモのワークスドライバーに抜擢。ル・マン24時間や全日本GT選手権、N1耐久に参戦。



Travis Carter Racing

30 Johnny BENSON

●ジョニー・ベンソン

Pennzoil Pontiac



1963年、ミシガン州生まれ。ストックカーレース・シリーズ、ASA（アメリカン・スピード・アソシエーション）で90年にルーキー・オブ・ザ・イヤーを獲得。93年にチャンピオンとなって、翌94年にはブッシュ・シリーズへとステップアップ。ここでもルーキー・オブ・ザ・イヤーを手に入れ、95年に2勝してチャンピオンに。今年からウィンストン・カップに参戦。



Bahari Racing

31 Mike SKINNER

●マイク・スキナー

Snap-on Tools Chevrolet



1957年、カリフォルニア生まれ。95年クラフトマン・スーパートラックシリーズ・チャンピオン。今シーズンは最多の8勝を挙げるが、ランキングは3位に留まった。今回はリチャード・チルドレス・レーシングのシボレーで出場する。



Richard Childress Racing

42 Robby GORDON

●ロビー・ゴードン

Winners Circle/Tonka Pontiac



1969年、カリフォルニア州生まれ。オフロードレースで活躍した後、GTマシンによるIMSAシリーズに出場。デイトナ24時間、セブリング12時間で優勝。インディカーへとステップアップ。来季からはストックカーへ転向することを決意し、今回、チーム・サブコからエントリー。マシンはポンティアックだが、来季からはシボレー・モンテカルロを使う。



Team Sabco

37 Larry GUNSELMAN

●ラリー・ガンゼルマン

Racestuff/Olson Technology Ford



1960年、カリフォルニア州生まれ。ウィンストン・ウエスト・シリーズ参戦中。94年はランキング12位。95年はランキング37位とやや低迷するも、ウィンストン・カップにスポット参戦を果たしている。



Race Stuff Motorsports

45 Ron HORNADAY, Jr.

●ロン・ホナデイ・ジュニア

Tootiestoy Chevrolet



1958年、カリフォルニア州生まれ。NASCARフェザーライト・サウスウエスト・ツアーで2度タイトル獲得。ウィンストン・ウエストでは、ランキング2位が最高位。父ロンSrはウィンストン・ウエストのチャンピオン。95年はクラフトマン・トラック・シリーズで6勝を挙げてランキング3位につけた。今年も同シリーズにフル参戦、念願のタイトルを手に入れた。



BMR Motorsports

38 Butch GILLILAND

●ブッチ・ジリランド

Pro Insulation/Stroppe Industries Ford



1958年、カリフォルニア州生まれ。ウィンストン・ウエスト出場10年のベテラン。95年、1勝を挙げて自己ベストのランキングは3位。



Bill Stroppe Motorsports

COMPETITORS

ドライバー紹介

50 Scott GAYLORD

●スコット・ゲイロード

BMR Motorsports Chevrolet



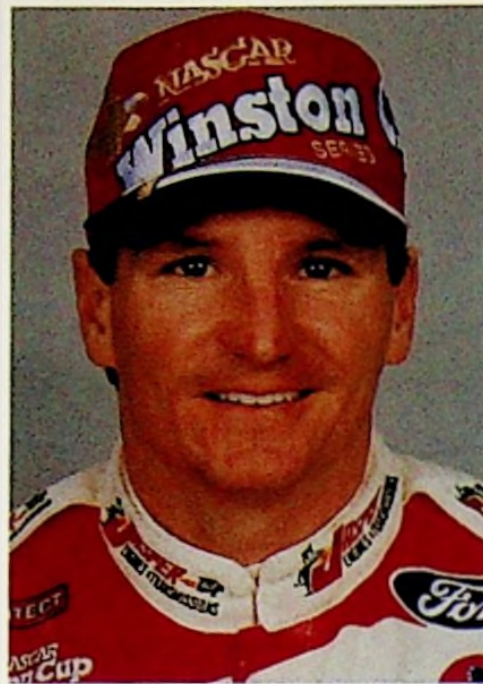
1958年、コロラド州生まれ。IMSAルノー・カップでレースデビュー。88年からウィンストン・ウエスト・シリーズに参戦開始。95年ランキング6位、今シーズンはランキング5位。ウィンストン・カップへのスポット参戦や、パイクスピーク・オートヒルクライムへの出場経験も。



77 Bobby HILLIN

●ボビー・ヒリン

Jasper Motorsports Ford



1964年、テキサス州生まれ。ウィンストン・カップのデビューは82年で17歳の時。86年、22歳1カ月22日でタラデガ500優勝。スーパースピードウェイでの最年少ウイナーとなった。96年は共同オーナーとなっているジャスパー・モータースポーツからフォード・サンダーバードでフル参戦。



61 Rick CARELLI

●リック・キャレリ

RE/MAX Chevrolet



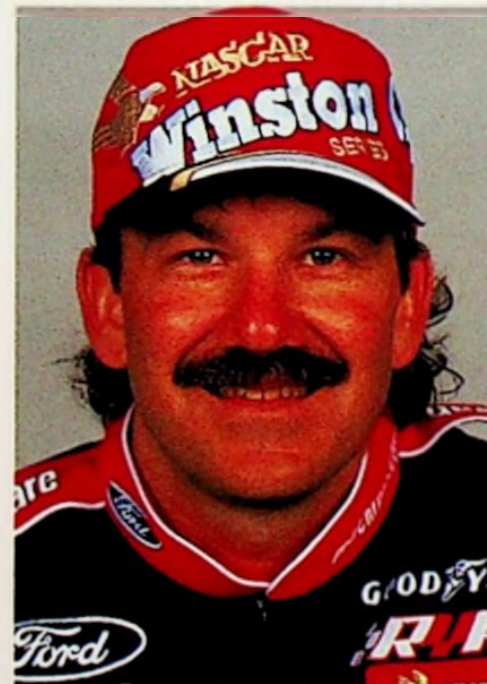
1954年、コロラド州生まれ。フェザーライト・サウスウエスト・ツアーとウィンストン・ウエスト、ふたつのNASCAR主催アメリカ西部ストックカー・シリーズでチャンピオンとなり、ウィンストン・カップにも出場経験あり。95年はNASCARクラフトスマン・トラック・シリーズにシボレーC1500でフルエントリー。今年も同シリーズに出場し、ランキング10位。



88 Dale JARRETT

●デイル・ジャレット

Ford Quality Care Ford



1956年、ノースカロライナ州生まれ。父ネッドはウィンストン・カップで2度チャンピオンになっている。デイトナ500では93年と今年2回の優勝経験を持つ。今シーズンはデイトナだけではなく、コカ・コーラ600、ブリックヤード400とメジャーイベントで優勝を重ねるなど強さに磨きをかけ、ランキングは自己ベストの3位を得た。



95 David GREEN

●デイビッド・グリーン

Caterpillar Chevrolet



1958年、ケンタッキー州生まれ。94年ブッシュ・シリーズチャンピオン。96年もブッシュ・シリーズにキャタピラー・シボレーで出場。最終戦までチャンピオン争いを繰り広げるが、29ポイントの僅差でランキング2位に。

COMPETITORS



美しいだけがツールではない

見た目に美しいツールはいろいろある
 しかしその真価は外見だけではわからない
 特に現代のマシンに不可欠なデリケートな整備作業には、
 それにふさわしいものが必要だ
 今、ハンドツールの頂点として、その仕上げや耐久性はもちろんのこと、
 とことんまで手への感触にこだわり、
 繊細な作業に見事に応える扱い易さをカタチにした
 新しいシリーズが完成した

フロの要求に応える圧倒的なクオリティは、
 大きなつかい手のために作られた他のツールたちを完全に凌駕する

nepros = NEW PROFESSIONAL SATISFACTION

その名はネプロス

新登場

nepros

MIRROR 5GQ・KTC



9 Ssq Socket Wrench 9 Ssq Deep Socket Wrench 9 Ssq Union Ratchet Handle 9 Ssq Spinner Handle 9 Ssq Extension Bar 9 Ssq Quick Spinner 9 Ssq Universal Joint 9 Ssq Spark Plug Wrench 45 Offset Wrench Flat Type Short Boxend Wrench Open End Wrench Combination Wrench Heavy Duty Dragon Plier Long Nose Plier Angle Nose Plier Plier Adjustable Wrench Screw Driver Stubby Screw Driver



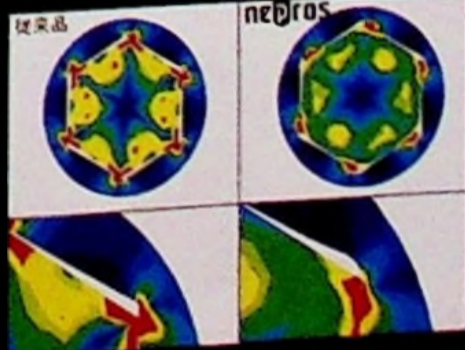
nepros

抜群の強靭さと耐久性
 KTCだけのオリジナル素材5GQを大手特殊鋼メーカーと共同開発。一般規格鋼材では不可能な高強度と耐久性を実現

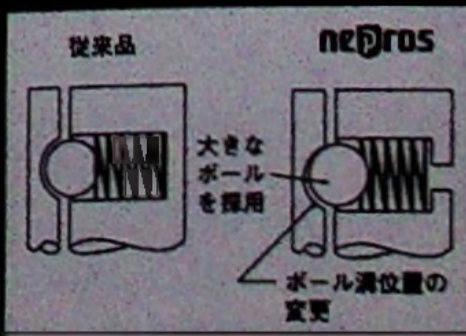


nepros

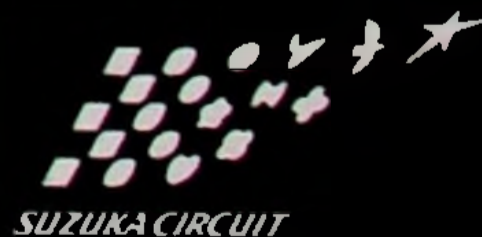
超コンパクト
 口径側の対角寸法を極限まで小さくし、高度な塑性加工技術を使用し、同時に軽量化。狭い場所での作業性を格段に向上



N/パワーフィット
 許容加工公差を厳しく設定することで、トルク・ノットとの嵌合を極限まで縮小。なおかつ、接触面を拡大する最適化設計を採り、トルク伝達を徹底的に向上



フィット感に優れた操作性
 例えば駆動工具との接合時に、力加減を最小となるようボール位置・サイズを再検討。また、トルクの逃げ角を見直し、よりスムーズな工具の回転を実現



SUZUKA CIRCUIT OFFICIAL TOOLS
 このツールは、SUZUKA CIRCUITの公式指定ツールとして認定。SUZUKA CIRCUITの公式指定ツールとして認定。SUZUKA CIRCUITの公式指定ツールとして認定。



京都機械工具株式会社

〒613-8501 京都府京都市東山区南船場1-3-20
 Tel: 075-246-3000 Fax: 075-246-3714

各工場の専用お問い合わせ窓口 TEL: 075-246-3716



自分が楽しめるクルマを
見つけたいね。

カーライフを楽しもう。 日本信販のオートローン。

日本人初の国際レーサーとして
世界に知られる生沢徹 (IKUZAWA TETSU) 氏。

アクレシフにクルマ計画

AUTO LOAN

オートローン



ご利用は無理なく計画的に

Nippon Shinpan
NICOS

SPORTS

私たち日本信販は、
モータースポーツを
応援しています。

NICOS SUPPORTING TEAMS



NICOS DRIVERS



NICOS SUPPORTING TEAMS
GUILWING (E.Tajima H.Okada) NAKAJIMA RACING (T.Takagi T.Kurosawa)

NICOS DRIVERS
K.Takahashi M.Hasemi Y.Terada M.Sekiya K.Tsuchiya T.Kinoshita T.Tanaka M.Kageyama H.Mitsusada

日本信販株式会社

HOLD OUT! JAPAN

がんばれ!ニッポン 日本人ドライバー4人 NASCARに挑む!

厳しいライセンス・テストをパスし
THUNDER SPECIAL100への出場権を獲得
NASCARのトップドライバーと戦う
日本人ドライバーの活躍に期待だ!



拍手もブーイングも大歓迎!

土屋 圭市 Keiichi TSUCHIYA

NASCARの最大の魅力は“主導権は観客にある”ってこと。チームでもドライバーでもない、スタンドにいるそのキミ、アナタがレース展開のカギを握っている。第2セグメントのスターティング・グリッドが、観客の要望によっては10位までが逆ポールになっちゃうかもしれないんだから、スゴイ。アメリカではイエローコーションだって、オーガナイザーが観客の顔色を見て、つまらなさそうにしていたら、レースを振り

出しに戻すために何度でも出すんだって。お客を楽しませてナンボって、いかにもアメリカ的な発想だよ。ボクらにしてみれば、戦略の立てようがないレースだから、最初から最後までガンガンいくしかない。とにかく、レースを面白くするもつまらなくするも観客の皆さん次第。拍手でもブーイングでも、どんどんアピールしなくっちゃ!日本初上陸のNASCARだけど、今回鈴鹿に見に来た人は絶対リピーターになると思うよ。

トップドライバーとの戦いを楽しみたい

脇田 一輝 Kazuteru WAKIDA

7月のライセンス・テストの時は、700馬力を超すマシンも初めてならオーバルコースも初めて。それまでの僕が経験していた最高速はGT2マシンでの250km/hで、NASCARはそれより50km/hオーバーの世界でしょ。バンクに進入する時はブレーキを踏まずにアクセルを少しずつ戻せてインストラクターに言われたんだけど、なんせコンクリート壁やガードレールがすぐそこだからメチャクチャ怖い。そんなレースを本場の観客はフェンス越しに間近に見れるんです。お客さんもスリルを味わえるんですよ。イエローコーションの時なんて、路面清掃車がコー

スを逆走するんですよ(笑)。レースは最後の10周でどの順位にいたかがカギになると思う。NASCARのライセンス保持者は全米で5万人。その頂点のドライバーたちと争えるんだから、すごく緊張しているけれど、とても楽しみです。



NASCARには未知の迫力とスリルがある

福山 英朗 Hideo FUKUYAMA

NASCARは日本ではまだまだ情報量も少ないので「たいしたことないんじゃないの」って誤解している人が多いかもしれない。でも、本当はドライバーも内容もすごくレベルの高い、強烈な人たちがやっているレースなんです。7月にウィンストン・カップのライセンス取得のためにシャーロットというショート・オーバルのコースを走ったんだけど、もう怖いなんてもんじゃない。時速300km/h以上でコーナーに切り込む時の迫力とスリル、それに恐怖感はグループCやGTマシンでは体験したことのない未知の世界だった。あのスピードを楽しめるように

なるには、もっともっとNASCARを走り込む必要があるだろうね。今回の鈴鹿でのレースは、自分としてはとにかく目一杯がんばるだけ。そしてできれば成績を残したい。ファンの皆さんにもNASCARがどれだけスゴくて、どれだけ強烈なレースかを、ぜひその目で見て感じて欲しいですね。



勝敗のカギを握るのは、チームの作戦と総合力だ

中谷 明彦 Akihiko NAKAYA



NASCARのマシンはとてもプリミティブ(原始的)で、近代的なレーステクノロジーはほとんど見られないけれど、安全面ではかなり頑丈ですね。セッティングなんてJTCCやGTのミリ単位の感覚とは大違いで、大雑把。そんなマシンをいかに乗りこなすかでドライバーの腕が試されるんです。ただ、マシンを乗りこなせばタイムは出るけど、レースに勝つのは別問題。タイヤ交換の早さ

とかピットインと見せかけてライバルチームを欺くとか、チームの作戦・総合力が問われます。メカニクは早さを追求するだけでなく、いかにビシッとカッコ良く決めるかを考え、演じているんです。決まった時は観客のリアクションを期待してるから、皆さんも惜しめない拍手を送ってください。コースを挟んだ両者が一緒にレースを盛り上げる。それがアメリカンレースの面白さかな。

旗立て声出し盛り上がる NASCAR流観戦のすすめ

毎レース15万人以上の観客が集まるNASCARだが、その観客たちはただ集まるだけでなく、熱狂ぶりもすごいものがある。

アメリカのコースでNASCARの観戦エリアは、コース外周に作られたスタンドと、コース内のインフィールドのふたつがあるが、そのどちらの観客も熱狂的で熱い声援をドライバーに送っているのだ。

その声援の熱さはハンパなものではなく、気に入らないドライバーがトップに立ったら大ブーイング、大好きなドライバーがトップに立とうものならそれこそ大変で、立ち上がり大興奮の歓声を上げる。とにかくブーイングも歓声も、おもいっきり浴びせるのがNASCAR流なのだ。

「タイムがどうの」「セッティングがなんだ」という理屈が入り込む余地はそこにはなく、目の前で起きることすべてに反応して盛り上がり、そして楽しむ。ストップウォッチ片手の観戦スタイルは、お呼びでないのだ。



NASCARファンの楽しみ方はハンパじゃない。だいたい家族、友人など大勢で連れ立ってやってくる。場所取りのためにレース前の火曜日から集まり、サーキットのゲート前でキャンプしながら開門を待つのだ。

NASCAR AMAZING DISCOVERY NASCARふしぎ発見

子供からおじいちゃんまで 一家で楽しむNASCAR

NASCARの観客の年齢層は幅広い。上にも広い下にも広く、サーキットにはチビ子からおじいちゃん・おばあちゃんまで、実に3世代、4世代分の人間が集まっているのだ。

子供たちは大好きなドライバーのTシャツを着て、パドックからドライバーが出てくるのをじっと待っていて、さらにその親たちも子供以上に熱心にドライバーを待つ。で、おじいちゃんたちはビールを飲みながら「あの若いドライバーは、まだまだヒヨコだな」と、レース談義に花を咲かせる。

そして、子供たちが大きくなって結

婚したら、またまたその子供がサーキットへやって来る。そしてまたその子供が……。という具合に世代を経て受け継がれるNASCAR観戦という娯楽。だからNASCARの観客は増えることはあっても、減ることはない。



大人に混ざって熱心にドライバーを待つ子供のファン。彼らがNASCARの未来を支えていると言っても言い過ぎじゃない。「誰々みたいになるんだ」というNASCARキッズの言葉は、日本の野球小僧のノリに似ている。



NASCARグッズは 必ず身につけたい!

NASCARファンのほとんどが、NASCARグッズを身につけてサーキットにやって来る。帽子だったり、Tシャツだったりそのアイテムは人それぞれだが、とにかくNASCARグッズを身につけていない人を探す方が難しいくらい、NASCARグッズは大人気なのだ。とりあえず好きなドライバーのTシャツとキャップが基本アイテム。さらにディープなファンになるほど、NASCARグッズの数は増えていく。身につけるもの以外にもマグカップやクルマのナンバープレートフレームなど、身のまわりのものをすべてNASCARグッズで揃えられるくらい、品揃えは豊富だ。

野球ファンがユニフォームを着て観戦に出かけるように、NASCARファンがNASCARグッズを身につけるのも当然のことなのかもしれない。

上の写真のようにピシッとNASCARグッズで固めるのが基本。右のキャップやTシャツやミニカーは、鈴鹿サーキット内のアメリカ館で購入することができる。アメリカ館にはこれ以外にもピンバッジ、ウェアなどNASCARグッズが勢揃いしているので要チェック。



ガソリンはNASCAR指定のユノカル76に限る

NASCARではスペシャル燃料は一切禁止されている。ファンから見えない部分で勝敗が決まってしまうおもしろくないため、全員がユノカル76の有鉛ハイオクを使わなければならない。

NASCARのマシンは22ガロン(約84ℓ)の燃料タンクをトランクの下部に装備しており、ピットストップでの給油には、11ガロン(約42ℓ)入りの2本のタンク(ガス缶)が使われる。圧力をかけての強制給油は禁止だ。

このガス缶は統一規格で、全チームがまったく同じものを使用している。材質はアルミで、指でも持ち上げられるほど軽量だが、ガソリンを満載すれば75キロもの重さになる。リア・フェンダー上端の給油口にガス缶を差し込むため、ガス給油担当メカは背が高くなくてはならず、重いガス缶を持って素早く移動できるパワーも兼ね備えていなくてはならない。



NASCARのオフィシャルガソリンのユノカル76。スペシャル燃料は禁止で、タイヤは全チームがグッドイヤーを使用しているため、NASCARで勝負を決めるのは、マシンの優劣とドライバーの腕だけと分かりやすい。

サインするのも仕事。人気ドライバーはつらいよ？

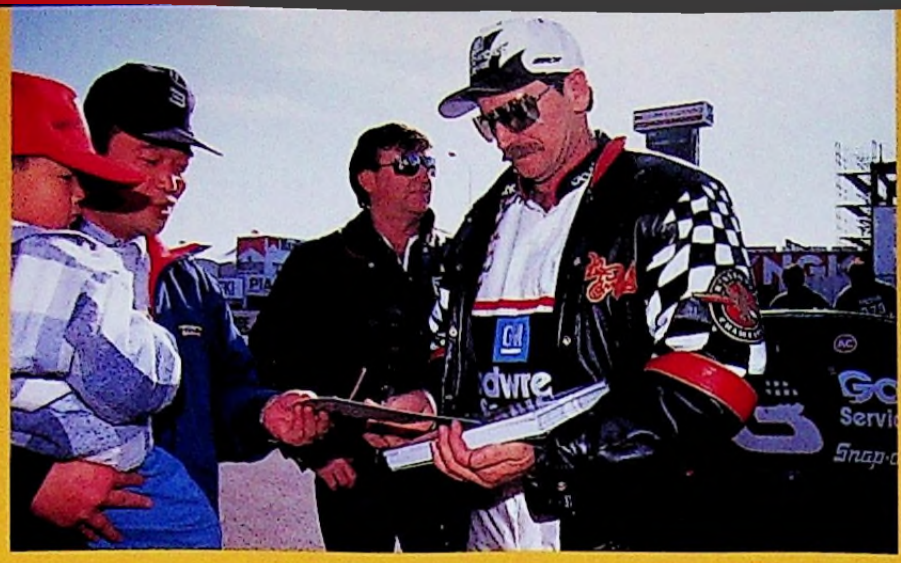
NASCARがアメリカ国民のメジャーイベントなら、当然そこに出場しているドライバーは、アメリカ国民の憧れの的である。

多くの人気スポーツと同じように、NASCARのファンもドライバーにサインをもらうことを喜びとしている。で、ずっとドライバーがパドックから出てくるのを待っている多くのファンに、NASCARドライバーは実に紳士的に対応する。

よほど忙しいときでなければ、最後のひとりになるまでその場でサインをし続けるのだ。

「ぼくらが生活できるのは、NASCARに出場しているから。で、そのシリーズを支えているのは、ファンのみんなだから」ということを、ドライバーは全員分かっているのだ。

鈴鹿でもチャンスがあったら、サインをお願いしてみよう。「ブリーズ、ユアオートグラフ」と笑顔でOKだ。



サイン攻めにあうのも人気のバロメーター。ここでの対応が良ければまたファンが増えシリーズが繁栄するから、嫌な顔はしない。ただし「サインして当然」という勘違いファンにはならないように。



「NASCARの sponsor になる。NASCARファンが商品を買う。売り上げが上がる。そうするとずっとNASCARをサポートしていこうとする」という好循環がNASCARの成功をもたらしている。

アメリカ生活必需品がNASCARの sponsor

ヨーロッパのレースが貴族やお金持ちの趣味として発祥したのに対して、NASCARはアメリカの一般庶民のレース。だから、sponsorはアメリカの一般生活関連が多くて、アメリカ人なら誰だって知っているものばかり。当然クルマ関係のガソリンスタンド、オイル、工具、部品・用品チェーン店から、大型スーパーマーケット、クスリ、タバコ、噛みタバコ、ビール、ジュースなどのソフトドリンク、ハンバーガー、ピザ、シリアル食品、洗濯洗剤などなど……。

で、ファンはsponsor関連の商品を当然ひいきする、つまり売り上げが増大しsponsorも喜ぶ。

ちなみにNASCARを開催するサーキットのある街のスーパーには、入り口付近はレース関連のTシャツやら関連グッズでいっぱい。だから、ドライバーはお父さんや息子だけじゃなく、お母さんたちの憧れだったりするのだ。

びっしりと貼られたステッカーの謎

アメリカで行われるNASCARの写真を見ると、マシンのフロントフェンダーに所狭しと貼られたステッカーが目をひく。これはNASCARウィンストン・カップの協賛sponsorのもの。シリーズのタイトルsponsor、ウィンストンが最上部にあり、オフィシャル・ガソリンのユノカル76、タイヤを全チームに供給しているグッドイヤーなどのサプライヤーのステッカー。それ以外にアメリカでのウィンストン・カップでポールポジション賞などの賞金を出すsponsorのステッカーが貼られている。

どのマシンも隙間なくびっしりとステッカーが貼られているが、中にはその数が少ないものもある。これは自らのメインsponsorと競合する会社による賞の場合、受賞の権利を失う代わりにステッカーを貼らなくてもよい、というルールとなっているからだ。

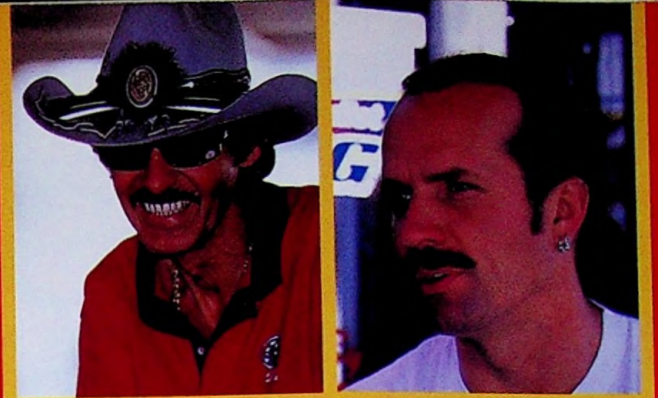
スチール製のボディパネルが溶接されているストックカーはドアが開かないが、これらのステッカーが貼られているところまでがフロントフェンダー。ドアはカーナンバー用のスペースとして空けておかなければならない。



二世や兄弟は当たり前NASCARドライバー事情

長い伝統を誇るNASCARでは、二世や兄弟ドライバーが多く存在する。現在走っているドライバーではカイル・ペティ（父は7度のウィンストン・カップ・チャンピオンのリチャード・ペティ。祖父リーはデイトナ500の初代ウイナー）、デイル・ジャレット（父のネッドは2度チャンピオンになっている）がその代表。デイル・アーンハート、スターリング・マーリンの父も、レーシングドライバーだった。

また兄弟ドライバーではテリー&ボビーのラポンテ兄弟、ラスティ&マイク&ケニーのウォレス兄弟、ジェフ&ブレッドのボダイネ兄弟などがその代表だ。「子供が家の仕事を継ぐのは当たり前だから、私も自然にNASCARドライバーになっていた」と言ったのは、リチャード・ペティ。そのノリでいけば、この後も二世ドライバーは数多く出てきそうな気配だ。



左がリチャードで右がカイルのペティ親子。「おじいさんとオヤジが偉大なドライバーだったのは分かっている」と、血統をプレッシャーにすることなくカイル・ペティはのびのびと走っている。



チーム全員がチームの顔だから服装にもこだわる

マシンなどにかく見るものすべてがカッコいいNASCARの世界。ピットクルーの着るチームウェアも、そんなNASCARカッコいいグッズのひとつだ。

背中にスポンサー名が入ったチームウェア。作業服とは呼べないくらい、カッコよくデザインされている。

で、これにもきちんと理由があって、サーキットで直接観客の目にふれるのはもちろん、NASCARはテレビで全米に放映されるので、やはり汚い作業服ではスポンサーのイメージも悪くなってしまふからだ。

スポンサーとチームのイメージアップのために、スタッフは全員がきちんとデザインされたチームウェアでピシッと決めているのだ。もちろんオイルのシミなんてついてない。

マシンだけかと思ったら、メカニックのウェア（特に背中）も重要なスポンサーPRのスペースだったというわけなのだ。

背中で人生を飾るのもいいが、スポンサーのPRも大切。それにしてもただロゴをつけるだけでなく、きちんとデザインしてあるのがカッコいいこと。あなたはどのチームのウェアがお気に入り？

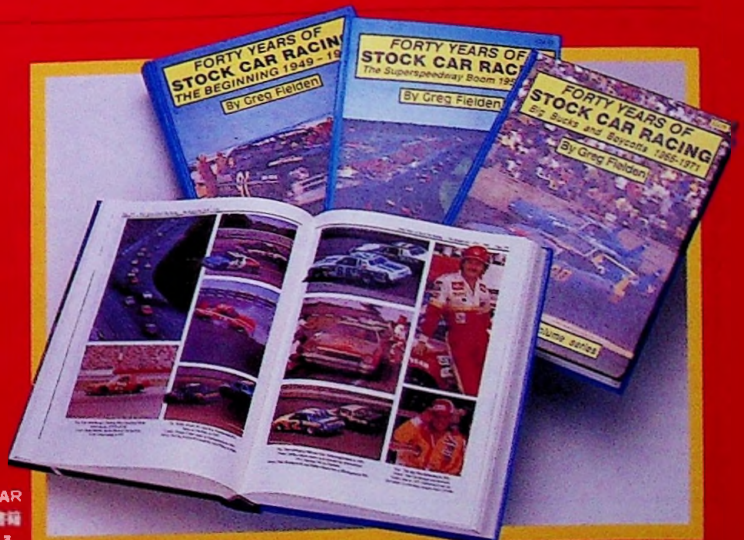
もっと知りたいNASCARのこんなこと

40年以上の歴史を誇り、伝統と伝説にあふれているNASCARには、まだまだ知らないことが一杯ある。そんなNASCARのことを、もっともっと知るための方法をいくつか紹介しよう。

まずはアメリカのNASCAR専門誌（紙）。週刊でいくつか発売されているこれらの専門誌（紙）は、レース速報はもちろんドライバーのインタビューなど記事も満載。また雑誌以外にもNASCAR関連の書籍は、アメリカで

数多く出版されており、アメリカ旅行の機会があったら、ぜひとも手に入れたいものだ。

また印刷物以外で、最近大流行のインターネットという手もある。NASCARオフィシャルホームページ（<http://www.nascar.com/>）で最新の情報を手に入れられる。NASCAR関連のホームページはこの他にもいくつもあつたから、色々なページを覗いてみるのもおもしろいだろう。



NASCARの歴史がすべて分かる「FORTY YEARS OF STOCK CAR RACING」が、アメリカにはこういう歴史物以外にもNASCAR関連の書籍が多く出ており、改めてNASCARレースの人気の高さを認識させられる。

ミリオンカード レーシングフォトコンテスト 作品募集中



さまざまなモータースポーツで繰り広げられる、いくつもの感動のシーン…。決して言葉だけでは語りつくせない一瞬のドラマを写真にかえて競う、「ミリオンカードレーシングフォトコンテスト」。今年も皆様の作品を大募集します。

●募集内容

国内および海外におけるモータースポーツ関連の未発表写真。対象は2輪・4輪を問わず、今シーズンの全レースとし、①マシン②サーキット風景(レーサー、サーキットクィーン、その他あらゆる作品)のいずれかの部門とさせていただきます。(例年のレースクィーン部門の作品は②のサーキット風景部門でご応募ください。)

●募集期間

平成8年11月1日(金)～12月25日(水) 当日消印有効

●応募資格

どなたでもご応募いただけます。
※ただし、プロカメラマン、報道関係者の方は対象外とさせていただきます。

●応募方法

カラープリント4つ切りサイズの作品の裏面に①ご住所②お名前③年齢④電話番号⑤部門名⑥作品の題名⑦レース名⑧撮影日をご記入のうえ、封書にて郵送してください。なお、ミリオンカード会員の方は、会員番号を必ずご記入ください。

●応募先

〒460-55
「ミリオンカードレーシングフォトコンテストP」係
(住所の記入は不要です。)

●審査方法

日本写真家協会会員・日本レース写真家協会会長
鈴木雅雄氏他により、厳正な審査を行ないます。

●結果発表

各賞の発表は雑誌MILLION4月号にて行ないます。
なお、入賞作品は鈴鹿サーキットでの展示を予定しています。
※応募作品は返却いたしませんのであらかじめご了承ください。
※応募作品の著作権は、(株)ミリオンカード・サービスに帰属します。

'95入選作品

賞品

- グランプリ(1名)
ミリオンギフトカード10万円分
- 準グランプリ(1名)
ミリオンギフトカード5万円分
- 入賞(各部門2名)
ミリオンギフトカード1万円分と'97フォーミュラ・ニッポン鈴鹿第1戦観戦券(ペア)
- ミリオンカード賞(各部門3名)
'97フォーミュラ・ニッポン鈴鹿第1戦観戦券(ペア)
なお、以上の各賞に入賞した方々には作品をカラー写真パネルに加工してプレゼントします。
- お問い合わせ
インフォメーションセンターまでお電話でどうぞ。

SUZUKAが
僕らのフィールドだ。

ミリオンカード ワールド 16TH IN SUZUKA

1997
1/26 SUN

- 場所/鈴鹿サーキット
- 時間/AM8:00～PM5:00
- 近鉄白子駅よりバスにて15分
- 東名阪自動車道 鈴鹿 I.C.より車で約30分
- 名阪国道 亀山 I.C.より車で約20分

ジョギング大会やモータースポーツ関連の
楽しいイベントがいっぱいです。

先着3,000名様に、ミリオンカード記念品をプレゼント。
ミリオンカード特設ブースにて乗物券優待販売

新春恒例ミリオンカードの
会員感謝デー
入場無料

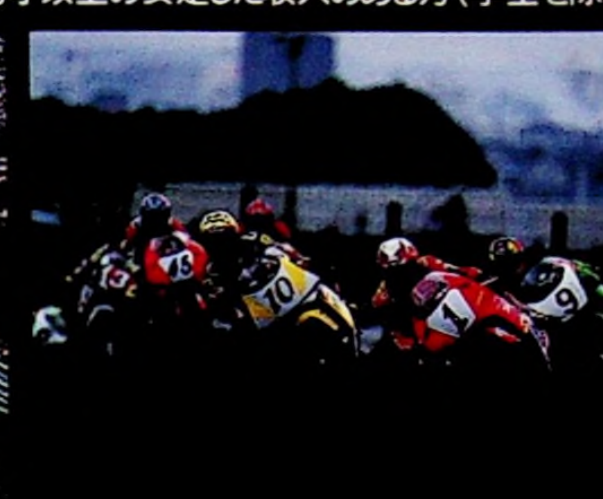
ご来場の際、専用受付にて
ミリオンカードをご提示ください。
入場料(通常大人1,500円・小人800円)が
会員おひとり様につき、同伴者を含め
5名様まで無料になります。



10月11日より
'97年度会員募集開始!!

鈴鹿サーキット
**F1 G CLUBカードは
ビッグな特典満載!!**

- ◆年会費 55,000円(税込み)
- ◆お申込資格/満20才以上の安定した収入のある方(学生を除く)



先着
1万人限定発行
募集締切日
平成9年
2月末日

F1も、NASCARも、フォーミュラ・ニッポンも、鈴鹿8耐も、2輪世界GPも、鈴鹿サーキットで開催される各種のモータースポーツイベントが**入場無料!!**

F1 G CLUBカードだけのウレシイ特典の数々をご用意しました。

'97F1日本GPが観戦無料。

「F1日本GP」がご本人観戦無料になります。指定席券はご同伴者を含め2枚ご購入いただけます。但し、ご同伴者は一般観戦券のご購入が必要です。

**パーソナルシートで
F1観戦をお楽しみください。**

- ★'97「F1日本GP」で観戦した同じ指定席で翌年もF1レースがお楽しみいただけます(ご同伴者も同様です。)
- ★会員を継続すれば、毎年同じあなた専用のパーソナルシートをご予約できます。

レース観戦無料サービス。

「日本GPロードレース」をはじめ、「鈴鹿8耐」、「NASCAR」など鈴鹿サーキットが開催する全てのレースも、ご本人は無料観戦できます。

同伴者割引サービス。

ご同伴者は3名様まで、F1レースを除く全てのレースの一般観戦券を前売り料金の90%割引でお求めいただけます。なお、一部レースでは前売り券の扱いのないレースもございます。チケットのお求めはミリオンチケットセンターへ。

パドックパスを20%割引。

レース当日発売のパドックパスを20%割引(ご本人のみ)。マシンやメカニック、ライダーの雰囲気を生で体感できるパドックでレースの臨場感もいっそう身近に(世界選手権レースを除きます)。

遊園地で大いに遊ぶ。

レースの他にもお楽しみがイッパイ。鈴鹿サーキットおよび多摩テック遊園地の入場料を年間を通して無料サービスいたします。また、遊園地のりものパスポートを当カードご提示により、会員特別料金にて販売いたします。(ご本人+3名様まで)



会員特別プレゼント。

素敵なファンクラブオリジナルグッズをプレゼントいたします。

会員の皆様だけの各種イベントを開催。

オリジナルグッズを10%割引。

Tシャツ、トレーナー、キャップなど鈴鹿サーキットオリジナルグッズを10%割引にて購入できます(カード決済時)。

ホテル・レストランご利用にもメリット。

鈴鹿サーキットホテルでのご宿泊および鈴鹿サーキット内のレストランでのお食事代を10%割引にてご利用いただけます(カード決済時)。*1泊2食の宿泊パックの割引はございません。



24時間ロードアシスタンスサービス。

一年365日、24時間あなたの快適なカーライフをサポートします。万一のトラブルの際は、電話料金無料のフリーダイヤルでご一報ください。ベテランのスタッフが対応いたします。

各種傷害保険自動付帯。

最高5,000万円の海外・国内旅行傷害保険と1,000万円のシートベルト保険が自動セットされます。さらに海外日本語サービスも受けられます。

*ご入金日から1か月経過後にご出発される海外旅行(運転)より、保険が適用されます。

お問い合わせ

- 鈴鹿サーキットF1 G CLUB事務局
..... ☎(0593)78-1111代
- ミリオンインフォメーションセンター
東京..... ☎(03)5276-7855
名古屋..... ☎(052)251-1220
大阪..... ☎(06)233-2403
受付時間 AM9:00~PM5:30(土曜・日曜・祝日も営業)





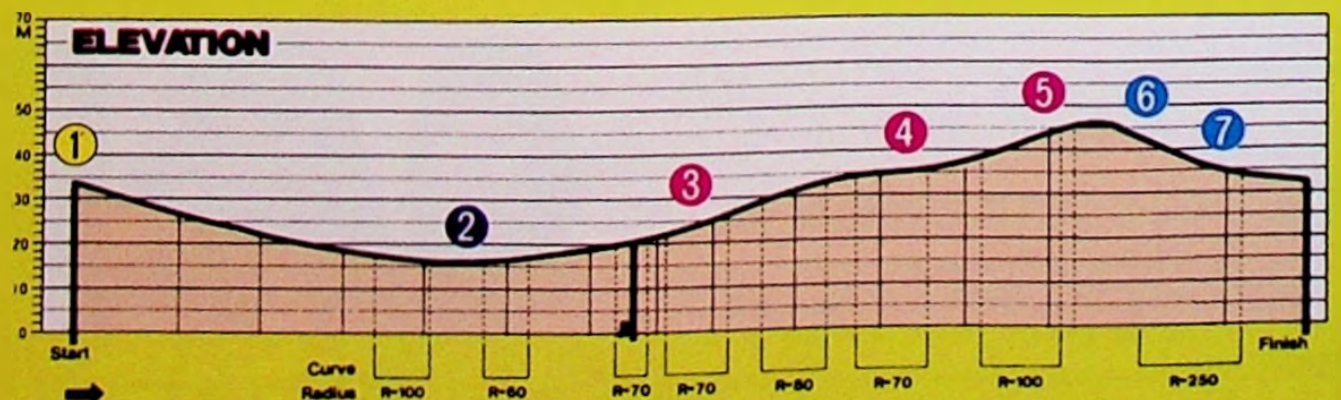
SUZUKA CIRCUIT

INTERNATIONAL RACING COURSE COURSE GUIDE



鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/データ

- 完成・COMPLETION : SEPTEMBER, 1962
- コース長・LENGTH
 - 東コース・EAST COURSE : 2.24363km(1.39mile)
 - フルコース・FULL COURSE : 5.86403km(3.64mile)
- コーナー数・CORNER
 - 東コース・EAST COURSE : 9
 - フルコース・FULL COURSE : 21
- メインストレート・MAIN STRAIGHT : 800m



観戦ポイント

下記観戦ポイントの説明の番号は、コース図と高低差を表すエレベーションに記してある番号を指しています。

<p>① グランドスタンド(サンダーストレート) Grandstand(Thunder Straight)</p> <p>レースの流れが一番分かりやすいのがグランドスタンド。スタートやゴールはもちろん、大型のカラーモニター、サーキットビジョンや順位を表示するリーダーボードがあり、レースの展開が分かりやすい。目の前で行われるピット作業の他、ストレートでの抜きあいも楽しめる。</p>	<p>② ファースト&セカンドターン 1st & 2nd Turn</p> <p>ファーストターンは鈴鹿サーキット一番の追い抜きポイント。下りのストレートから、スリップストリームを使ってファーストターンへの飛び込みで追い越していく。そのギリギリまで遅らせるブレーキング競争が勝負のポイントになる。また、スタート直後のトップ争いは大迫力だ。</p>	<p>③ Sターン S-Turn</p> <p>その名の通りS字の形をしたコーナー。左、右と連続するテクニカルなコーナーのため、リズムカルなマシンの挙動が楽しめる。ここをうまく走れるかどうかタイムに大きく影響するため、ドライバーのテクニックとマシンのセッティングを見るにはもってこいの場所。</p>
<p>④ 逆バンク(Sターン) Anti-Banked Curve(S-Turn)</p> <p>サーキットのコーナーには、普通すり鉢状のカントと呼ばれる傾斜がついている。だが、ここはその傾斜がほとんどついていないため、ドライバーからは逆に傾斜しているように見えるのでこの名がある。ドライバーにとってはシビアなコーナリングが要求される。</p>	<p>⑤ ダンロップコーナー(Sターン) Dunlop Corner(S-Turn)</p> <p>コースの中で最も上り勾配のきつい地点。その上高速コーナーのため、ドライバーにはかなりの横Gがかかるハードなコーナー。ここをスムーズにクリアすると、タイム短縮につながる。マシンが駆け上っていく様子は迫力がある。区間タイムを測ってみるのも一興。</p>	<p>⑥ 東ショートカット(ファイナルターン) East Shortcut(Final Turn)</p> <p>東コースを使用する場合のみ使われるコーナー。全日本クラスのレースでは、JTCCのみ使用される。この進入はパッシングゾーンとなるだろう。また、N山の自由席に近く、目の前をレーシングマシンが通過する様は迫力満点だ。</p>

⑦ ファイナルターン
Final Turn

東ショートカットから続く下りのコーナーで、ストレートやファーストターンでの追い越しのために重要なポイント。ここでの立ち上がりがよくないとサンダーストレートでの加速に影響し、ひいてはラップタイムにも大きく影響してくる。

- ① The color monitor, a circuit vision, and a leader board allow those in the Grandstand to easily follow the unfolding of the race.
- ② The First and Second Turns are typical passing points at Suzuka Circuit. Drivers display their techniques of braking into and accelerating out of the corners.
- ③ The S-Turn provides drivers with a left-right-left series of curves.
- ④ This corner has practically no cant. To drivers, it looks as if the surface cants the other way. A precise cornering technique is essential.
- ⑤ At the Dunlop corner, drivers experience strong lateral G forces, and their machines may undergo drifting.
- ⑥ The East Shortcut is an ideal passing point due to drivers inexperience at the corner. Fans in the non-reserved N stands can see spectacular racing here.
- ⑦ The Final Turn inclined downward, signifies a long and important passing point before heading into the Thunder straight and First Turn. If taken poorly, it will hamper acceleration on the Thunder straight and lap times. An ideal place to compare acceleration performance.

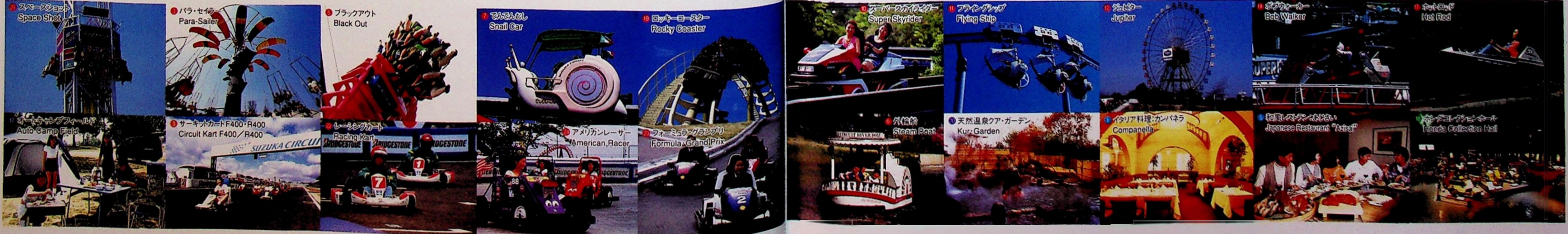
コースレコード (東コース)					
CLASS	TIME	DRIVER	MACHINE	DATE	RACE
JTCC	0'51"888	黒澤 琢也	HONDA ACCORD	96.6.1	JTCC SUZUKA SUPER TOURING

鈴鹿サーキット・東コース ラップタイム&平均速度				コース距離×3600 ラップタイム(秒) = 平均時速	
Time	Speed(km/h)		(MPH)		
0分40秒	201.926	125.471	(125.471)	0' 50"	161.541 (100.377)
0' 41"	197.001	122.411	(122.411)	0' 51"	158.373 (98.408)
0' 42"	192.311	119.497	(119.497)	0' 52"	155.328 (96.516)
0' 43"	187.838	116.717	(116.717)	0' 53"	152.397 (94.695)
0' 44"	183.569	114.064	(114.064)	0' 54"	149.575 (92.942)
0' 45"	179.490	111.530	(111.530)	0' 55"	146.855 (91.251)
0' 46"	175.588	109.105	(109.105)	0' 56"	144.233 (89.622)
0' 47"	171.852	106.784	(106.784)	0' 57"	141.702 (88.050)
0' 48"	168.272	104.559	(104.559)	0' 58"	139.259 (86.532)
0' 49"	164.838	102.426	(102.426)	0' 59"	136.899 (85.065)



天然温泉クア・ガーデン営業時間
 11月22日(金) 11:00 ~ 23:00
 11月23日(土) 6:00 ~ 8:30
 11:00 ~ 23:30
 11月24日(日) 6:00 ~ 8:30
 11:00 ~ 23:30
 ※プール営業時間
 各日も11:00 ~ 22:00
 料金(税込み) 大人 子供
 温泉のみ 1000円 800円
 温泉+プール 1500円 1200円
 (※6:00~8:30と18:00以後のご
 利用は温泉のみの場合でも大人
 1500円、子供1200円となります。)
 (※子供は3才~小学校6年生)

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|--|
| モトピア
①総合案内所
②入場券売場
③正面ゲート
④救護所
⑤ワッピャーバー
⑥モータースポーツランド
⑦ジョイフル広場
⑧めぐりあい広場
⑨グランプリ広場
⑩サーキットスクエア
■遊園地
●トイカート
●メリーゴーランド・ポロ
●バラ・セイラー
●エアロコモ
●ブラックアウト
●外輪船 | ●でんでんむし
●ぶんぶんハチ
●マッパセブン
●スーパースカイライダー
●フライングシップ
●ジュビター
●スペースカプセル
●ホブウォーカー
●モトピアゴカート
●スケータージョーカー
●ホットロッド
●アクアカート
●ロックンコースター
●サイドフォース カート
●シェール
●ミニムバー
●レーシングカート
●フォーミュラ・グランプリ
●アメリカンレーサー | リゾート
■リゾート施設/サーキットホテル
●アクア・フォレスト
(アイススケート場営業中)
●INDY500
●セレクトショップ
●ベネトン
●フェニックス/ティレルショップ
●PIAA
●サーキットプラザ
●サーキットファミリーショップ
■売店
●スーパー
●シェール
●アゼリア
●アメリカンモータースポーツ館
●コンビニ「サーキットストア」 | ●ログキャビン・KARAOKEハウス
●オートキャンプフィールド
●ゴルフ練習場
●ゴルフショートコース
●天然温泉クア・ガーデン
●レストラン/スナック
●イタリア料理:カンパネラ
●中国四川料理:桜園
●すし:浜風
●てんぷら:花露
●和風レストラン:あじさい
●グランドレストラン
●ラウンジ&エイト
●フレンチジュリエット・グランプリ
マクドナルド
●カフェテラス:チボリ
●研修会場:あかや
●研修会場:すずかけ
●研修会場:あすなる | ソニブレロ
●ワッピャースナック
ソニアル
①ハーモニホール
②グランプリホール
③グランプリホールウイング
④サーキットホテル
⑤ホールメーブル
⑥水上ホール
⑦さつきホール
⑧オーキッドルーム
⑨汎用ホール
⑩交通教育センター
⑪モーターサイクルスクール
⑫研修会場:あかや
⑬研修会場:すずかけ
⑭研修会場:あすなる | 研修会場:あかや
●鈴鹿国際フォーラム・ロジック
●運動会場
●ホンダコレクションホール
モーターレース
①国際レーシングコース
②グランプリスタント
③サーキットカートF400/R400
④グランプリスタック
⑤コントロールタワー
⑥ピット
⑦パドックサロン
⑧SMSC事務所
⑨第1パドック
⑩第2パドック
⑪第3パドック
⑫第4パドック
⑬レースチケットセンター | Motopia
●Information Center
●Ticket Office
●Main Gate
●Emergency Medical Center
●Wappy Valley
●Motor Sports Land
●Joyful Plaza
●Chance meeting Plaza
●Grand Prix Plaza
●Circuit Square
●Motopia Ground
●Toy Kart
●Merry-Go-Round-Polo
●Para-Sailer
●Air Locomo
●Black Out
●Steam Boat | ●Snail Car
●Humming Bee
●Mach 7
●Super Skyrider
●Flying Ship
●Jupiter
●Motor Capsule
●Bob Walker
●Motopia Go-Kart
●Skating Car
●Hot Rod
●Aqua Kart
●Rocky Coaster
●Side Force Kart
●Mini Mover
●Racing Kart
●Formula-Grand Prix
●American Racer | ●Fan and Game
●Virtual Factory
●Space Shot
●World Shopping Street
●INDY500
●Select Shop
●Benetton
●Phoenix/Tyrell Shop
●PIAA
●Circuit Plaza
●Circuit Family Shop
●Stores
●Souvenir
●Schere
●Azalea
●American Motor Sports Shop
●Circuit Store | Resort
■Hotel/Resort Facilities
●AQUA FOREST
●Putter Goll
●Tennis Court
●Peony Garden
●Manyo Grove
●Bowling Alleys
●Hotel Reception Area
●Cottage C
●Lodge D-E
●Lodge F
●Hotel G
●Hotel J
●Hotel K
●Hotel L
●Hotel M
●Log Cabin-Karaoke House | ●Auto Camp Field
●Golf Practice Range
●Golf short Course
●Kur-Garden
●Restaurants/Snackbars
●Companella
●Lou Lan
●Sushi "Hamakaze"
●Tempura "Hanagasumi"
●Japanese Restaurant "Azisai"
●Grand Restaurant
●Lounge Menuett
●Boulangere du Grand Prix
McDonald's
●Cafe Terrace "Tivoli"
●Noodle Corner
●Cosmos
●Sombbrero | ●Wappy SnackBar
Social
●Harmony Hall
●Grand Prix Hall
●Grand Prix Hall "Wing"
●Circuit Hall
●Hall "Maple"
●Aqua Hall
●Hall "Satsuki"
●Orchid room
●Multipurpose Hall
●Traffic Education Center
●Suzuka Motorcycle School
●Meeting Place "Akashiya"
●Meeting Place "Suzukake"
●Meeting Place "Asunaro"
●Meeting Place "Keyaki" | ●Suzuka International Forum-Lounge I
●Athletic Field
●Honda Collection Hall
Motor Sports
●International Racing Course
●Grandstand
●Circuit Kart F400/R400
●Grand Prix SnackBar
●Control Tower
●Pit
●Paddock Salon
●Clubhouse S.M.S.C.
●1 st.Paddock
●2 nd.Paddock
●3 rd.Paddock
●4 th.Paddock
●Race Ticket Center |
|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|--|



RESORT

充実のリラクゼーション、
泊まって食べてバカンス満喫。

ホテルやレストラン街、さらに温泉・スポーツ施設などを備える、
鈴鹿サーキットのリゾートエリア。とっておきのリゾートを提供します。

**Complete Relaxation, Full Enjoyment for Vacation,
with Pleasure-Stay & Favorite Food.**

Hotel and restaurant streets, as well as hot-spring and sports facilities are
provided. Suzuka Circuit resort area offers specially reserved resort.



ワイワイ！ワクワク！
楽しさいろいろ、鈴鹿サーキット。

MOTOPIA

とことんエキサイティング！
スケールビッグなのりものワンダーランド。

エンジンつきののりものを集めた「自分で動かす」が
コンセプトの遊園地、モトピア。

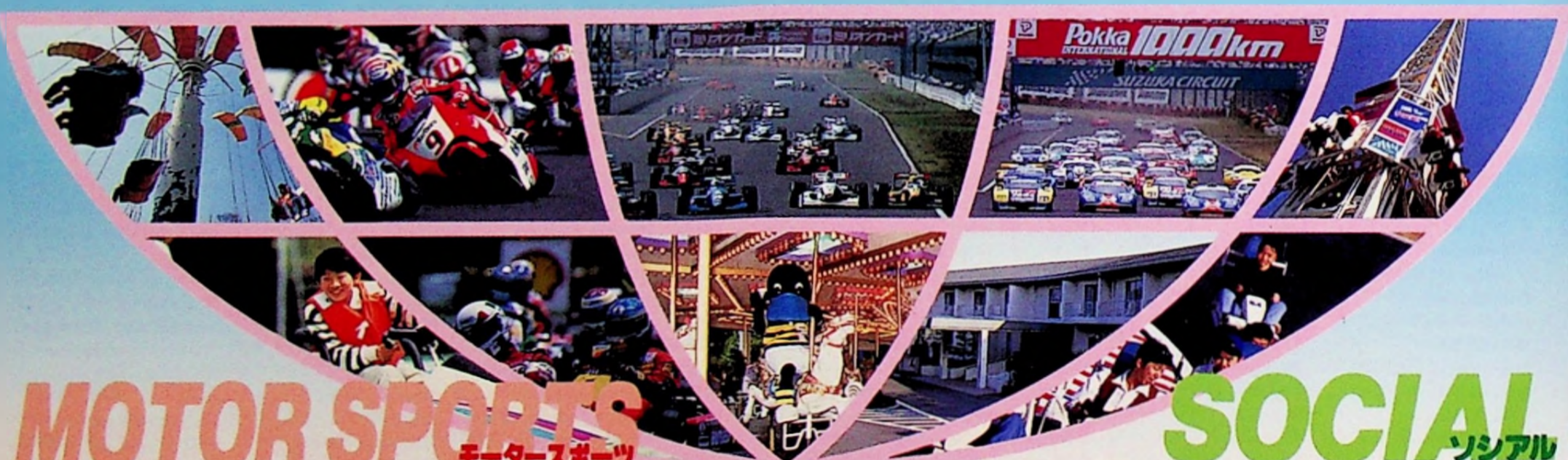
オリジナリティあふれるマシンがスタンバイしています。

Thoroughly Exciting! Wonderland Vehicles in Big Scale.

Pleasure ground collecting vehicles fitted with engine, under the concept of
"Move by Yourself". Motopia. Various machines
loaded with full originality are prepared.



MOTOR SPORTS RESORT SUZUKA CIRCUIT



MOTOR SPORTS

モータースポーツ

歴史と情熱がいきづく、
世界に誇るレーシングフィールド。

全長約5.8kmの国際レーシングコースを中心に、
日本のレースフィールドのメッカとして位置づけられるモータースポーツエリア。
世界の頂点を競うレースから若手育成・底辺拡大のためのレースも積極的に開催しています。

**History & Breathtaking Passion,
Racing Field proud to the World.**

Centering around the international racing field course of 5.8km in full length.
Motorsports area situated as Mecca of racing field in Japan.
With races at the pinnacle of the world, other races are also positively held to
foster young drivers and to enlarge basic ranges.



SUZUKA CIRCUIT

SOCIAL

ソシアル

モータリゼーションの理想を目指す、
鈴鹿独自の教育・研修エリア。

人と車の理想郷を目指す教育・研修の場、それがソシアルです。
レーシングスクールや2輪教習所などをはじめ、各種の「交通安全教育」
から交通社会の未来を築くために貢献しています。

**Aiming at Motorization ideals,
Suzuka's Unique Education & Training Area.**

Education and training institute, aiming at Utopia
combining person with car, it's quite social. Inclusive of racing and motorcycle training schools,
they contribute to building future traffic society with various types of "Traffic Safety Education".



NGK
SPARK PLUGS

心臓からチューンしろ。

世界初

見た目もスゴイが中身も凄い。
新素材イリジウム合金採用電極、0.6mm極細径

ずっと飢えていた。どんなにドレスアップにこだわっても、走りに差がなきゃ意味がない。そんな本音を見透かしたのか、画期的なスーパープラグの登場だ。新素材イリジウム合金を採用した、極細0.6mm径の発火電極。限界まで高められた着火性・スパーク特性。そしてそれらが可能にした、アクセルワークへの忠実なレスポンスと胸のすく吹き上がり。見た目のハデさもヌケた走りへの期待をあおる新プラグ・イリシリーズ——「IRIWAY」「IRITOP」「IRIMAC」。完璧を目指すなら、すかさずコイツをマシンにしこめ。



IRIWAY
BKR-Eタイプ
(熱価7・8・9)

IRITOP
BCPR-Eタイプ
(熱価7・8・9)

IRIMAC
DCPR-Eタイプ
(熱価8・9)
※96年秋発売予定

CHANCE!

ミリオンカード ご入会&ご紹介キャンペーン実施中!

新たに会員になられる方へ、
ご入会プレゼント

すでにミリオンカードをお持ちの方へ、
ご紹介プレゼント



▲VIPカード



▲ヤングゴールドカード



▲鈴鹿サーキットカード

合計530組 1,060名様に当たる!

CHANCE! フォーミュラ・ニッポン鈴鹿ラウンド レースチケット 合計500組 **1,000**名様

CHANCE! フォーミュラ・ニッポン鈴鹿ラウンド 本表彰パーティご招待 合計30組 **60**名様

はずれた方にもチャンス!
ミリオンオリジナルテレホンカード(50度数)..... **500**名様

専用の申込書でお申し込みください。

ミリオンカードなら
鈴鹿を100%楽しむ
サービス満載

- ひとクラス上のレース観戦 ラウンジ&ビット上観戦サービス
- 大迫力の臨場感 ビット上観戦サービス
- 電話一本でO.K. レーシングチケット優待サービス
- その他にもさまざまなサービスがいっぱい。

●お問い合わせは ミリオンインフォメーションセンター
東京 ☎(03) 5276-7855 名古屋 ☎(052) 251-1220 大阪 ☎(06) 233-2403
受付時間 AM9:00~PM5:30 (土・日・祝日も営業)

